

愛知大学経営総合科学研究所叢書 46

# 戦前期の日本企業における 社会貢献活動

- 三菱財閥の寄附に関する検討を中心として -

石井里枝 著

愛知大学経営総合科学研究所

# 目 次

はじめに .....	1
第 1 章 明治期から戦間期にかけての三菱による寄附	
- 『寄附金明細帳』の検討を通じて - .....	4
第 2 章 寄附に関する意思決定組織についての分析	
- 『寄附委員会議事録』を用いた検討 - .....	14
第 3 章 戦時期における三菱による寄附	
- 『決算勘定書』・『決算書類』の検討を中心にして - ...	51
第 4 章 まとめと課題.....	70
おわりに .....	74

## はじめに

本叢書の主な課題は、三菱史料館所蔵史料である『寄附委員会議事録』や『寄付金明細帳』、『決算勘定書』、『決算書類』などの資料を用いて、三菱による寄附の実態、ならびに意思決定機関としての寄附委員会とはどのような組織であったのかといった点について明らかにすることである。さらに、寄附に関する検討を通じて、企業による社会的貢献活動について考察を行うこともその目的とする。

三菱財閥では、コンツェルン体制に移行してから短期間のうちに本社部門が変遷し、それに伴い統轄組織も短期間のうちに変遷した。そのようななかで、本叢書において検討を行う寄附委員会は 1932 年から 1945 年までという、比較的長期間組織されていた。また、この期間は戦間期から戦時体制期にかけての時期に位置している。したがって、寄附委員会の活動について検討することを通じ、このような時期における財閥の企業行動の一端を明らかにすることができるのではないかと考えられる。

また、この時期において三菱財閥の社会事業への寄附は拡大されていたとされ(長沢 1987<sup>1</sup>)、実際に、1930 年代の三菱財閥における経営組織について検討した石井 (2010)<sup>2</sup> では、社長室会における議事項目として、寄附金に関する項目が多く観察された。しかしながら、寄附に関する重要審議が行われていた寄附委員会の実態については、今までの先行研究においてほとんど明らかにされてこなかった。そこで、本叢書では財閥の経営組織に関する筆者の関心と、社会的貢献に関する関心とをクロスさせるかたちで論じていくことにしたい。

ではここで、研究史における記述について概観することにしよう。まずは三菱による寄附に関する論点について整理すると、研究史においては次のような評価

- 
- 1 長沢康昭(1987)「本社部門の役割」三島康雄・長沢康昭・柴孝夫・藤田誠久・佐藤英達『第二次大戦と三菱財閥』日本経済新聞社。
  - 2 石井里枝(2010)「1930 年代の三菱財閥における経営組織 理事会・社長室会の検討を中心に」『三菱史料館論集』第 11 号。

が行われている。

まず、旗手勲（1978）によると、三菱財閥による寄附に関して、判明する 1919 年から 1931 年までは、毎年 100 万円以下の寄附金額であり、ほぼ景気の好不況に応じて、その金額が増減していたという<sup>3</sup>。そして、1934 年にはピークを迎えることになるが、1932 年からの寄附金額の急増は、三井財閥による社会事業団体寄附との呼応であった、としている。すなわち、旗手（1978）の分析によると、三井によるドル買い、団琢磨暗殺に端を発した、「財閥の転向」に関連する文脈において、三菱による寄附行為を位置づけているものと考えられる。

長沢（1987）においても、旗手（1978）と同様の評価が行われているといえる。すなわち、三菱財閥による寄附に関して、1932 年からの急激な増加および三菱社の株式公開が行われた 1940 年からの大きな減少について指摘しており、1932 年からの急激な増加という点について、いわゆる「財閥批判」と、それへの対応としての寄附という文脈で用いられているのである<sup>4</sup>。以上のように概観したとおり、研究史において、三菱の寄附に関する記述は「財閥批判」への対応という文脈で用いられることが比較的多く、財閥による社会的貢献に対する評価や、どのような社会的貢献活動が行われていたのかについての関する立ち入った検討は、管見の限り見当たらない。

次に、寄附委員会に関する研究史について整理することにしよう<sup>5</sup>。麻島昭一（1986）は、委員会全般に関して、三菱財閥の「委員会好みの傾向」について指摘している<sup>6</sup>。そして、寄附委員会に関していうならば、1940 年 10 月 5 日に設置されたものであるとし、「一定金額で寄付金負担を各社に割り当てる仕組み」であったとしている<sup>7</sup>。

3 旗手勲（1978）『日本の財閥と三菱 財閥企業の日本的風土』楽遊書房。

4 前掲長沢（1987）238 頁。

5 なお、筆者は石井里枝（2012）「三菱財閥と委員会組織 寄附委員会を事例として」『愛知経営論集』第 166 号、において寄附委員会に関する若干の検討を試みている。そちらも併せて参照されたい。

6 麻島昭一（1986）『三菱財閥の金融構造』御茶の水書房。

また、長沢（1981）氏によると、寄附委員会について、「三菱社並分系会社二関係アル寄付金」を各社に配分するために設置されたものであるとしており<sup>8</sup>、本社統制の再強化という流れのなかで位置づけているように思われる。こうした麻島氏、長沢氏による解釈は、主に『三菱社誌』記載の「寄附委員会内規制定」に基づくものである<sup>9</sup>。したがって、きわめて限定的な解釈を行っているように思われるものの、その解釈のあり方には資料上の制約が大きく関連しているものであると考えられる。このように、寄附委員会に関する研究史上の記述も寄附に関するものと同様に少なく、あるとしてもその開始時期やその設置意義についての検討に限定されており、その実態についての検討はほとんどみられないといっ  
てよいであろう。このように、研究史における検討が極めて限定的なものであったということについての大きな要因は、やはり資料上の制約によるところが大きいといえよう。そこで本叢書では、三菱史料館所蔵史料である『寄附委員会議事録』や『寄付金明細帳』、『決算勘定書』、『決算書類』などの史料を用いて、詳細な検討をめざすのである。

本叢書の構成は、次のとおりである。第1章では、『寄付金明細帳』を中心に用いて、明治期から大正期にかけての時期を中心に、三菱が行ってきた寄附のあり方について明らかにすることにする。第2章では、『寄附委員会議事録』を用いて、寄附に関する意思決定機関であった寄附委員会の実態を明らかにする。第3章では、『決算勘定書』や『決算書類』を中心に用いて、戦時期を中心に、1935年から1945年の時期における三菱の寄附活動の実態について、具体的な分析を行う。第4章はまとめにあてられる。

---

7 前掲麻島（1986）、80頁。

8 長沢康昭（1981）『三菱財閥の経営組織』三島康雄編『日本財閥経営史 三菱財閥』日本経済新聞社、108頁。

9 『三菱社誌』38、1677～1678頁。

## 第1章 明治期から戦間期にかけての三菱による寄附 ——『寄附金明細帳』の検討を通じて——

本章では、三菱史料館所蔵史料である、『寄附金明細帳 自明治二十七年度至大正九年度』（MA - 2200）および『寄附金明細帳 大正十五～昭和四』（MA - 6340）といった史料を用いて、明治期から大正期にかけての時期を中心に、三菱が行ってきた寄附のあり方について明らかにすることにしよう。なお、この時期以降の寄附に関する詳細については、次章における寄附委員会議事録を用いた検討、ならびに第3章における、1935年以降を中心とする『決算勘定書』および『決算書類』を用いた検討のなかで明らかにしていくことにしたい。

でははじめに、表1をみることにしよう。この表は、明治期（1894年～1911年）における三菱による寄附金額について、三菱合資会社・奥帳場・高輪邸の別に記したものである。まず同表に関する検討を行うことにしよう。

表1 明治期における寄附金額

（単位：円）

年度	三菱合資会社	奥帳場	高輪邸
1894年		41,158.85	100.00
1895年		22,514.00	
1896年	3,650.00	7,009,299.00	
1897年		5,955.00	
1898年	300.00	53,836.25	
1899年		12,480.00	20.00
1900年		62,910.32	1,750.00
1901年		40,390.84	5,250.00
1902年		155,612.94	2,750.00
1903年	4,000.00	15,394.06	2,370.00
1904年	1,154.75	68,100.00	2,250.00
1905年	23,984.46	54,216.37	5,600.00
1906年	1,936.76	75,167.50	5,050.00
1907年	69,300.00	38,406.88	13,300.00
1908年	27,742.00	17,150.00	4,350.00
1909年	47,273.00	27,818.92	55.00
1910年	43,568.80	77,424.00	480.00
1911年	73,735.00		

（出典）『寄附金明細帳』（MA-2220, 6340）

資料の制約上、明治初期のころからの実態については明らかにすることはできないが、1894 年からの動向について述べると、明治期において三菱では、本社（三菱合資会社）からの寄附のほか、奥帳場や高輪邸からの寄附がおこなわれており、とくに奥帳場からの出資は多額にのぼっていたということがわかる。ここで、奥帳場は岩崎家（本家）による個人的な出資となり、高輪邸は弥之助家（分家）からの出資となる。

さらに、この時期においてどのようなところに寄附を行っていたのかについて、奥帳場の事例について明らかにしたものが、表 2 である。同表では、『寄附金明細帳』（MA - 2200）に基づいて、1894 年から 1911 年までの間に奥帳場の勘定からどこへ寄附を行っていたのかについて明らかにしている。

表 2 奥帳場からの寄附の提供先（1894～1911 年）

1894 年	北里青山歓迎会特別寄附 海軍恤兵部寄贈品代の内 報国会費 海軍寄贈 陸軍恤兵寄贈 海軍恤兵寄贈品運賃 同上
1895 年	軍大救護会義捐 保険金寄附 軍人遺族弔慰金義捐金 有志商人奉迎会寄附 日本海員救済会寄附 故岩倉公神殿建設費 深川区兵員慰労会寄附金 靖国神社臨時大祭
1896 年	東京感化院新築寄附金 14/5/27 執行善那氏種痘発明百年記念祭寄附 三陸地方海難義捐金 工手学校建築費の内へ寄附金 東京水害罹災民救済費寄附 面谷鉦山尋常小学校建築費寄附金

故参謀総長有栖川宮銅像設立寄附金

1897 年

大阪商船会社三光丸沈没に付  
印度飢饉  
同上慈善会切符  
能会寄附金  
演武場寄附金  
両邸より従軍記者弔慰会  
八王子大火災罹災者へ  
元寇記念碑建設会へ  
喜書会の日本地図調整に付寄附  
豊国会寄附金  
簡易商業学校建築寄附金  
生野町役場新築寄附

1898 年

荒川村基本金の内へ寄附  
生野高等尋常小学校へ寄附  
慶応義塾へ寄附  
長崎ニテ奈良丸溺死者遺族へ義捐  
京都大龍寺再建寄附  
巴里博覧会出品組合出費  
彫刻奨励会へ寄附  
遷都三十年祝賀会へ寄附  
東京養育院へ寄附  
開慶院本堂改築に付寄附  
日本体育会名誉賛成寄附  
藤嶋神社奉還会寄附  
長崎衛生文庫創設費  
日本美術協会列品館増築  
北海道洪水救恤費及 費  
弘武館建設  
台湾協会原資金  
大阪商船会社宮川丸遭難義捐金

1899 年

山梨県水害義捐金  
ベルリ歓迎会寄附金  
彫刻奨励会寄附  
共済慈善会へ寄附  
神武天皇御降誕大祭寄附  
簡易商業学校へ寄附  
統計講習会へ寄附  
生野高等尋常小学校新築に付寄附



越前堀火災罹災者救恤金  
 富山県火災罹災者救恤金  
 大日本海外教育会へ寄附  
 横浜市火災罹災者救助金  
 職工徒弟学校演芸会へ寄附  
 大磯小学校新築費  
 濃美育児会基本金  
 別子銅山火災義捐金

## 1900 年

故秋月先生記念碑建設費の内へ寄附  
 目白僧園へ寄附金  
 故ボースキ追吊金  
 大日本武術講習会へ寄附  
 英米国国勢調査視察渡航  
 東宮御処事奉祝会へ寄附  
 養老院基本財産の内へ寄附  
 彫刻会補助金  
 瓜生岩子銅像建設費の内へ寄附  
 長崎慰労会へ  
 中井桜洲山人建碑費内へ寄附  
 米国海軍少尉ベアズリー氏歓迎会費の内へ  
 清国事件に付陸軍恤兵へ酒食寄贈費  
 同海軍恤兵へハンケチ寄贈費  
 大阪市 扶殖会  
 芝二丁目十四番地啓蒙学校へ  
 女子大学校創立費の内  
 日本奨兵義社へ  
 月嶋丸遭難義捐金  
 海員倶楽部家屋建設費内へ

## 1901 年

第二医院焼失罹災者救助費の内  
 大日本弘武館へ  
 切通町及仲町先下水修繕工事費中へ  
 大蔵省出版明治財政史編纂費の内へ  
 土佐協会奨学資金内へ  
 菅公会へ  
 ベルリ上陸地点記念碑建築費の内へ  
 藤嶋神社奉遷費中へ  
 土佐安芸町より井ノ口村を経畑中村に至る村道改築費の内へ  
 安芸郡井ノ口村開慶院本堂建築費の内へ  
 柏魂社臨時大祭神饌料  
 帝国大学マリスミン博士文庫代支出電報料  
 帝国大学マリスミン博士文庫代

1902 年

女子美術学校建設費の内  
第五艦隊遭難者遺族吊慰金  
亀戸神社東都管公会へ  
第五回内国博覧会協賛会へ  
海城学校新築費の内へ  
故後藤伯記念物建設費の内へ  
鳥嶋罹災者義捐金  
東京高等工業学校奨学資金  
神奈川県海難罹災者へ義捐  
帝国海事会へ  
献納回遊汽船初風号建造費

1903 年

川崎造船取巻丸遭難者遺族救恤金  
東北飢饉義捐金 時事新報社  
日本鉱業会臨時大会寄附  
献納回遊汽船初風号回航費  
故楠本氏建碑費の内へ  
福沢諭吉氏記念碑費内へ  
東宮御慶事奉祝会献納美術館接続御便殿増設費  
基督教青年会寄附  
共済慈善会寄附

1904 年

故福沢先生建碑費  
帝国軍人後援会  
広瀬中佐記念物設立費  
ペルリ記念基本金  
忠勇顕彰会  
熊本回春病院  
東亜商業学校

1905 年

兵員慰労有志寄附金  
名取川丸遭難吊慰義捐金  
日本女子大学校第二次寄附金  
靖国神社臨時大祭奉納会  
国民後援会  
印度震災救恤金 時事新報社  
海軍恤兵蓄音機幻燈器械等  
戸山分院（傷病兵集会所）建築費  
渋谷分院（同上）建築費  
基督教青年会へ  
京北幼稚園建築費内へ

恤兵部へ寄贈蓄音機不足補充の分  
 孤児救護基金へ  
 在露邦人軍人捕虜 帝国軍人後援会  
 米賓「タフト」氏一行歓迎会費  
 故小幡篤次郎氏文庫費の内へ  
 故福沢先生文庫費の内へ  
 海陸軍恤兵部へ寄贈 山桜集 300 部代  
 東京高等商業一橋会艇庫建築費の内へ  
 英国支那艦隊司令長官及将校歓迎費

## 1906 年

東洋女学校創立に付 森村銀行  
 東北三県救恤金  
 同仁会へ  
 厳島に関する寄附金  
 台湾震災救恤義捐金  
 米国震災救恤義捐金  
 東京府教育会へ  
 三笠艦遭難者遺族賑恤義捐金  
 熊本回春病院維持資金  
 東京工業学校創立二十五年記念奨励資金  
 女子英学塾校資金 土屋英次郎  
 海軍集会所基金 武田秀雄  
 早稲田実業学校建築基金寄附  
 巢鴨小学校新築費の内へ寄附  
 戸山分院病兵娯楽所移転費の内へ 陸海省  
 授職所創立につき寄附 山科凌雲  
 帝国義勇艦隊建築設義捐金  
 被害基督教会堂慰問寄附金

## 1907 年

静岡県出獄人保護会寄附 金原明善  
 東京感化院分院家庭農業苑資金  
 安針塚建碑資本への寄附  
 靖国神社図書館建築費寄附  
 故陸奥伯銅像建立寄附  
 日仏協商祝賀会費  
 米国大使送別会費  
 高知大嶋岬招魂社再築寄附金  
 東京慈恵会寄附  
 レイコ氏歓迎会会費  
 帝国義勇艦隊建設費

## 1908 年

故松田源一郎氏銅像建築費へ寄附

韓国基督教青年会へ  
 清正公三百年祭へ寄附  
 三好氏奨学資金内へ寄附  
 ミセスイザベラメリープリンスへ贈与金  
 東京日々新聞社書籍クラブへ寄附  
 舞鶴海軍工廠職工青年会館新築費へ寄附  
 土佐井ノ口小学校建築費  
 小岩井農場へ皇太子殿下行啓費用  
 土佐堤防根固工事費へ寄附  
 土佐開慶院へ寄附  
 土佐星神社建築費寄附  
 多久聖堂保存方寄附  
 第四回帝国義勇艦隊建設費

#### 1909 年

東京市養老院資増立会費  
 帝国海事会四十三年度  
 東大寺大仏殿大修繕費寄附  
 神苑会へ寄附  
 大阪浜田健次郎氏へ送金  
 回春病院へ寄附  
 本銚子町遭難者救護費  
 海法会へ寄附  
 故伊藤公銅像建築費  
 臨時水害救済会へ寄附  
 東京水害善後会へ寄附  
 台湾討伐隊慰問寄附 台湾総督府  
 楽石院建築費 伊沢修二  
 点字出版協会補助費  
 土佐協会奨学資金  
 佐久間大尉銅像建設費  
 帝国義勇艦隊建設費

#### 1910 年

帝国海事会会費 四十四年度  
 佐々木侯爵 堂金の内へ寄附 佐々木行忠  
 板垣翁寿像建築資金の内へ寄附 日下義雄  
 海軍共同救済会へ寄附  
 浦太郎奨学金の内へ寄附  
 東京病兵院菊池耕作氏へ寄贈金及送料  
 二松学舎へ寄附金  
 東京養老院資増殖会会費  
 基督教青年会拡張寄附金  
 大阪博愛職工学校へ寄附金  
 暁星学校拡張資金の内へ寄附

御後室より故梅若銅像建設等寄附  
 台湾水害義捐金  
 台湾神社献納石燈  
 四十四年分帝国学士院学術研究会奨励資金  
 帝国義勇艦隊船建造寄附 第六回分

1911 年

st.kilda's union へ寄附  
 日露協会基金の内へ寄附  
 同上 ¥12500 の内  
 福田会育児院改築費内へ寄附  
 報徳会寄附金  
 第一高等学校柔道撃剣道場建設寄附金  
 福岡市聖福寺寄附金  
 四十五年分帝国学士院学術研究会契属資金  
 藩祖銅像建設費寄附金  
 野口式飛行機期成会寄附金  
 乃木大将国民大会大吊祭寄附金  
 帝国義勇艦隊船舶建造費  
 土佐安芸郡水害寄附金  
 日米支援教授基本金  
 渡辺田中両伯祝賀会寄附金  
 東京市養育院増殖会費

(出典) 『寄附金明細帳』(MA-2220, 6340)

(注) は解読不能であることを示す。

表2の分析からは、明治期の三菱においては、たとえば1894年における陸軍、海軍といった軍事関係に対する寄附についても特色があるといえるが、それだけではなく災害に対してや、学校に対する寄附も多額にのぼっているということがわかる。確かに、明治期においては、三菱自体からの寄附は少額にとどまっていたと思われる。しかしながら、奥帳場や高輪邸といった個人的な出資も併せて考えてみると、災害に対する義捐金や教育事業に対する出資など、社会的意味のある寄附も比較的多く行っていたということが理解できる。

表3 大正期（1912～1920年）の三菱合資会社における寄附金額  
(単位：円)

年度	
1912年	117,901.00
1913年	103,312.50
1914年	207,342.00
1915年	169,025.00
1916年	214,186.19
1917年	1,618,855.70
1918年	4,265,860.46
1919年	975,915.40
1920年	1,836,271.11

(出典) 『寄附金明細帳』(MA-2220, 6340)

表4 寄附金額別合計金額（1926～1936年）

(単位：円)

年度	1926年	1927年	1928年	1929年	1930年	1935年	1936年
1万円以上	156,000.00	356,501.75	328,000.00		366,000.00	2,179,500.00	912,061.00
5千円以上	72,500.00	61,500.00	66,500.00		76,000.00	86,500.00	77,000.00
1千円以上	167,047.60	148,800.00	166,410.34		231,242.25	73,946.10	135,750.00
500円以上	24,799.00	20,920.00	29,220.00		38,082.90	29,000.00	20,900.00
100円以上	37,367.65	41,901.18	41,549.60		46,953.24	156,930.00	64,390.00
50円以上	6,594.34	7,075.34	7,652.71		9,471.50	11,514.00	10,809.50
50円未満	10,739.64	12,924.22	13,156.77		12,469.13	14,331.00	14,960.00
合 計	475,048.23	649,622.49	652,489.42		780,219.02	2,551,721.10	1,235,870.50

(出典) 『決算勘定書』各年度(MA-2203, 2206, 2208, 2210, 2212, 2213)

(注) 空欄は不明であることを示す。

さらに、1912年から1920年にかけての三菱合資会社による寄附金額について記した表3および1926年から1936年にかけての規模別の寄附金額について記した表4を併せて検討すると、戦間期にかけても、金額の少ないものから多いものまで、さまざま規模の寄附がおこなわれていたということが理解できる。このように、三菱における寄附に関していうならば、いわゆる「財閥の転向」の時期に特に限定されるものではなく、比較的早い時期から行われていたということができるのである。

すなわち、本章における『寄附金明細帳』の検討からは、額の多少はあるものの、明治期においてから三菱においては、社会的寄附が継続して行われていたということが明らかとなった。また、奥帳場、高輪邸といったように、三菱の本社

(三菱合資会社)だけでなく、異なる財源から寄附がおこなわれていた。そして、金額別にみても、高額なものから小額なものにいたるまで、さまざまな規模の寄附が行われていた。すなわち、三菱では古い年代から比較的多くの寄附が行われていた、という事実が明らかになった。

## 第2章 寄附に関する意思決定組織についての分析 『寄附委員会議事録』を用いた検討

本章では、三菱史料館所蔵史料である『寄附委員会議事録』第1号・第2号・第3号・第4号（MA - 8038, 6306, 6307, 8670）を用いて、寄附に関する意思決定機関であった寄附委員会の実態を明らかにする。また、財閥内の経営組織における委員会の位置づけについても、寄附委員会の事例から導き出せる結果に即した範囲で明らかにしていくことにしたい。

ではここで、寄附委員会とは、いったいどのような組織であったのかについて、その内容を簡単に明らかにすることにしたい。ここで、はじめにおいても少しふれたように、研究史上、寄附委員会は、『三菱社誌』掲載の次のような「内規」をもって、その組織についての概観があたえられてきた<sup>1</sup>。

（史料）

寄附委員会内規

一、本委員会ハ三菱社並二分系会社ニ関係アル寄附金ニシテ金額壹千円ヲ超ユルモノヲ取扱フ

金額壹千円以下ノモノハ三菱社専務取締役ニ於テ裁量ス

（中略）

四、寄附金ハ三菱社並二分系会社ニ於テ適宜安排負担ノコトトシ其結果ヲ協議會ニ報告スルモノトスル

（後略）

このような「内規」からは、一見すると寄附委員会は、比較的大口の寄附に関

---

1 「寄附委員会内規制定」『三菱社誌』38, 1677～1678頁。



して本社と分系会社との間において「按排負担」するために、本社株式公開後の時期において設置された機関であるというような理解もできる。しかし、後述するように、寄附委員会に関しては、1932年4月からその議事録が現存しており、小額の寄附に関しても決議が行われていた。すなわち、先行研究が行ってきたような、『三菱社誌』記載の「内規」に関する検討だけでは、寄附委員会という組織および、当該期における三菱による寄附の実態について、詳細な検討を行うことはできない。そこで、本章では、『寄附委員会議事録』（三菱史料館所蔵）を用いて、寄附委員会についての実態、および当該期における三菱による寄附の実態について明らかにしていくことにしたい。

まず、寄附委員会とはどのような組織であったのかについて明らかにするために、開催日程について示すことにしよう。ここでは最初に、章末に付した表5を参照することにしたい。

表5は、1932年4月から1945年8月までの間における、『寄附委員会議事録』に記載されていた開催日程および出席者について表したものである。これらを概観すると、日程について注目すると、大まかに月2～3回のペースで委員会が開催されていたということが分かる。そして、注目すべき点としては、1930年代のみならず、戦時期においてもこのような開催のペースが保たれていたということがあげられる。そして、議事録が残されていた1932年4月8日から1945年8月3日までの間において、合計で361回の開催を確認することができる<sup>2</sup>。

こうした点から、寄附委員会について、次のような事実を確認することができる。まず、寄附委員会は、確認できるだけでも1932年から1945年まで、毎月の開催ペースを基本的にまもった上で開催されていた。また、後ほど詳しく検討するが、単に開催されるというだけでなく、具体的な審議内容も伴っていた。したがって、委員会として有効に、比較的長期間にわたって機能していた。このよう

---

2 ただし、表5においても明らかなように、1937年12月から3月にかけては、「寄附金記事」のみが残されており、委員会にかんする議事録が残されていない。したがって、この期間において委員会が開催されていた可能性もあり、その場合には361回よりも多い回数であったことになる。

な点や、前章において検討したような、明治期以来の寄附の状況についてふまえて考えてみると、三菱における寄附に関しては、財閥批判に対応する転向策 いわゆる「財閥の転向」 が指摘されるような時期に限定されるわけではなく、明治期から、そして戦時体制期にわたっても、長い時期にわたり継続して行われていたということが分かる。

次に、出席者について明らかにすることにしよう。ここでは表6に注目することにしたい。同表は、『寄附委員会議事録』に記載されていた委員会出席者についてグラフ化して表したものである。大きく分けて、1940年時点においてメンバーの交代がみられたほか、1942～43年の時点において新たな出席者がみられたことがわかる。そして、これら出席者の財閥内における役職について示したものが表7である。これらの表（表6・表7）を併せて検討すると、出席者の特徴について、次のようなことがわかる。

まず、設立当初から1940年くらいまでは、本社役員により寄附委員会は構成されていた。そして、このメンバーは、社長室会という、1930年代前半の財閥内におけるトップ・マネジメントを担っていた組織における参加メンバーとも重複する<sup>3</sup>。なお、参考として社長室会の出席メンバーについて記したものが、表8である。

こうした点からは、寄附委員会においては、三好重道、永原伸雄、赤星陸治といった本社理事たちによる合議が行われていたということが理解され、設置当初の1930年代前半期においては、寄附委員会は社長室会という当時のトップ・マネジメント（上位組織）に対する下部組織的な役割を担っていた可能性が示唆される。なぜこうした点が指摘できるのか、というと、単に出席者の重複だけではなく、次のような理由にも拠る。例えば、『寄附委員会議事録』の審議内容においては、以下のような記述が残されている。

---

3 石井里枝(2010)「1930年代の三菱財閥における経営組織 理事会・社長室会の検討を中心に」『三菱史料館論集』第11号、153頁。

表 6 寄附委員出席者

『寄附委員会議事録』第1～第4号(MA-8038, 6306, 6307, 8670)。(出典)

表7 寄附委員会メンバーの職位

氏名	役職名
三好重道	本社常務理事
永原伸雄	本社理事
赤星陸治	本社理事
船田一雄	本社理事
佐藤梅太郎	本社参与
千田勘兵衛	本社総務副長
武藤松次	取締役常務理事
森本政吉	本社秘書役兼
河手捨二	本社取締役
加藤武男	銀行取締役会長
田中完三	商事取締役会長
斯波孝四郎	三菱重工取締役会長
平井澄	本社取締役常務理事
郷古潔	三菱重工取締役社長
小村千太郎	三菱鉱業取締役社長
元良信太郎	重工取締役社長
石黒俊夫	本社総務部長
鈴木春之助	取締役常務理事

(出典)『三菱社誌』各巻。

表8 社長室会出席メンバー

1934年4 - 12月	副社長(岩崎彦彌太) 総理事(木村久寿彌太) 串田万蔵 青木菊雄 三好重道 永原伸雄 船田一雄
1935年1月 - 1936年5月	副社長 串田万蔵 青木菊雄 三好重道 永原伸雄 船田一雄
1936年6月	副社長 串田万蔵 青木菊雄 三好重道 永原伸雄 船田一雄 三谷一二
1936年7 - 12月	副社長 串田万蔵 青木菊雄 三好重道 永原伸雄 三谷一二

(出典)『社長室会議事録』第1～5号(MA-8023, 8024, 8025, 8026, 8027)。

(史料)

金壹万円也援助ノコトニ決議ス但社長室会附議ノコト

こうした史実からは、大口の寄附に関しては、寄附委員会における具体的な議論をふまえ、最終的には社長室会による決議が必要とされていたということが分かる。すなわち、もともとは寄附に関する意思決定は、社長室会において行われていたが<sup>4</sup>、こうした大口の寄附に対する最終的な決議(審議)については、のちに後継的機関である常務会や三菱協議会において行われるようになった。

そして、この出席メンバーについて大まかに時期区分をするならば、1940 年からは、こうした本社役員の出席に加え、三菱重工業・三菱鉱業・三菱商事・三菱銀行といった分系 4 社における社長または会長が、この委員会を構成するようになる。このような変化に関しては、本社の株式会社化といった、本社組織の変容にともなって、コンツェルン内部における統轄のあり方に変化が生じた帰結であると考えられるが、そのような変化の一端として、寄附委員会における出席者の構成に注目すると、分系会社の代表者の出席が、戦時期の企業組織の変化にともなって、見られるようになったといえる。さらに、分系会社といっても、重工・商事・銀行・鉱業といった各会社からの出席が行われていたが、これに関しては、後述の表 11（第 3 章）における寄附金の分担率からもわかるように、この分系 4 社については、寄附金分担の割合が他社にくらべてきわめて大きかったためであるということができよう。

そして、出席者に関しては、前述の表 6 からわかるように、1943 年 4 月からは、時には代理出席がみられるようになった。これについては、1936 年 3 月 26 日に開催された寄附委員会での次のような申し合わせが関係していると考えられる。

（史料）

今後已ムヲ得サル場合ニハ委員欠席ノ場合ハソノ代理人トシテ常務取締役ノ出席ヲ認メル

すなわち、このような申し合わせによって、常務取締役による代理が認められることになり、そのためにこれ以降の時期における代理出席がおこなわれるようになったのである。しかし、裏を返せば、代理出席をみとめたということは、代理人によってであれ、メンバーは必ず出席をおこなうように義務付けられた、ということができるであろう。すなわち、出席者という側面からみるならば、寄附

委員会は形骸化された組織ではなく、また寄附に関する意思決定に関しては合議制が徹底されていたという解釈をすることができるであろう。

では次に、寄附委員会における議事（審議）内容についての具体的な検討を行うことにしよう。

まず、委員会における具体的な内容についていうと、大きく分けて、報告（支払済報告・上位機関による決議報告・払込方申越報告）と議事とにわかれており、申請者による寄附・援助の「申出」をうけて、寄附委員会において審議がおこなわれた。また、決議機関としての役割を付与されていたということは、議事録における次のような表記からも理解できる。

（史料）

寄附ノコトニ決議ス

見送ルコトニ決議ス

断ルコトニ決議ス

三井共打合せノ上追テ詮議ス

援助ノコトニ決議ス但社長室会ニ附議ノコト

この4段目の記載にある「三井共打合せ」とは、三井財閥における寄附に関する機関との打合せのことを指すと考えられる。このような、他財閥との振合に関しては、表9においても右欄において記載しているが、寄附金額の決定に際して比較的多くみられた。そして、同表からも明らかなように、この場合のような三井との振合が最も多くみられたが、その他にも住友・安田といった諸財閥との間の打合せが行われることもあった。

また、いわゆる財閥批判に対する転向策・対策との関連ではいかなることがいえるのかについて考えてみると、1932年から1933年にかけての具体的な審議内容について記した表9において示される審議内容について検討すると、次のような特徴点についてうかがい知ることができる。すなわち、こうした審議内容について、寄附を認める場合であっても、その一方で「今回限り」あるいは「本年限り」援助をみとめるというケースがみられる<sup>5</sup>。したがって、このような点からは、

従来であれば寄附を断るような場合においても、こうした時期に限っては、その寄附をみとめていたということが理解できる。そして、なぜこうした「本年限り」みとめられるような寄附がおこなわれていたのかについて考えてみると、やはり社会的な財閥批判の風潮への対応策という側面がうかがいあがる。すなわち、通常の時期であるならば寄附をおこなうことを断るようなケースにおいても、世論による批判を免れるために、単年という条件を付してその寄附を認めるという場合が存在していたのではないかと考えられる。このような本年限りの寄附に関していうならば、確かに財閥批判に対する。

また、1回の審議において寄附の諾否をすべて決めていたというわけではなく、たとえば1万円以上といった額の大きなものに関しては社長室会開催時期においては、社長室会における決議が求められ、その後1938年においては「常務会ニテ決議ス」ることや、1939年7月から1941年1月にかけては「三菱協議会ニ附議」することなども求められた。すなわち、大口の寄附に関しては上位機関における決議、審議が求められていた。さらに、何度も「慎重詮議」がおこなわれた場合や、「三井トモ打合」が行われた場合などもあり、形式的な話し合いの場合だけではなく、かなり慎重な取り決めが行われていたということも理解できる。すなわち、開催日程に関する検討ともあわせて考えると、寄附委員会における実質的な審議および委員会としての有効な機能という点について、あらためて理解することができるのである。

このように、本章においては、三菱史料館所蔵史料である『寄附委員会議事録』第1号・第2号・第3号・第4号（MA - 8038, 6306, 6307, 8670）を用いて、寄附委員会についての開催日程や出席者、議事内容などについて具体的な検討を行った。その結果、寄附委員会に関する資料は1932年4月から現存しており、こうした時期区分からするならば、財閥批判への対応として増加した寄附件数に対し、社長室会における審議では対応しきれず、寄附に関する審議に機能を特化

---

5 なお、こうしたケースについては、表9の検討からも、1932年のほうが1933年の場合よりも多いことが理解できるが、それ以降の時期においてはほとんどみられなくなる。

させるために新設されたものであったのではないかと考えられる。

また、出席メンバーに関していうと、1932の時点においては、本社役員により構成されていたが、1940年以降は、加藤武男（三菱銀行取締役会長）、田中完三（三菱商事取締役会長）といったような、分系会社のトップが参加するようになった。この点については、先行研究においてもすでに指摘されているような、分系各社に寄附金を分配させるという寄附委員会の機能の付加による結果ではないか、と考えられる。すなわち、設立当初において、寄附委員会は、寄附の諾否に関する意思決定を行うという機能に特化しており、さらに、額の大きな寄附金に関しては、社長室会、常務会、三菱協議会といった、上位機関における決議が必要とされた。しかし、戦時体制期に移行するなかで、分系各社への寄附金の割当という機能も付加されたのであり、そうした配分への審議をおこなうために、分系会社のトップが参加するようになったのではないかと考えられる。そしてさらに、額の大きなものに関しても上位機関での決議がみられなくなり、寄附金に関する最高の意思決定機関となったものと思われる。すなわち、権限に関する意思決定の分散化（分権化）の一つの事例であるということができよう。



表5 寄附委員会における日程と出席者

日程	出席者	幹事	委員長
1932年 4月 8日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 4月15日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 5月 9日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 5月21日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 6月 3日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 6月 8日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 6月15日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 6月21日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 6月29日	三好・永原・赤星・船田・佐藤		三好
1932年 7月 6日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 7月13日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1932年 7月14日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 7月20日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 7月27日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 7月28日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 8月17日	三好・永原・赤星・船田	千田	三好
1932年 8月31日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 9月 7日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 9月14日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 9月21日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年 9月28日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年10月 5日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1932年10月12日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1932年10月19日	永原・船田・佐藤	千田	
1932年10月26日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年10月29日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1932年11月1日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年11月 7日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年11月14日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年11月22日	三好・船田・佐藤	千田	三好
1932年11月29日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年12月 6日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年12月13日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1932年12月20日	三好・永原・赤星・船田	千田	三好
1932年12月27日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 1月17日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 1月24日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 1月31日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 2月 7日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 2月14日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 2月21日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 2月28日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 3月 7日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 3月14日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1933年 3月22日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 3月28日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1933年 4月 4日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 4月11日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好

1933年 4月17日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 4月25日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 5月23日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1933年 5月30日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1933年 6月 6日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 6月14日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 6月20日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1933年 6月27日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 7月 4日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 7月12日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 7月14日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1933年 7月18日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 7月25日	三好・永原・赤星・船田	千田	三好
1933年 8月 1日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 8月15日	三好・船田	千田	三好
1933年 8月29日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 9月 7日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 9月11日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 9月19日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年 9月26日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年10月 4日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年10月10日	永原・赤星・船田・佐藤	千田	
1933年10月18日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年10月26日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年11月 1日	永原・赤星・船田・佐藤	千田	
1933年11月 7日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1933年11月14日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年11月22日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年11月28日	三好・永原・赤星・船田	千田	三好
1933年12月 5日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年12月12日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年12月19日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1933年12月26日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 1月 9日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 1月16日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 1月23日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 1月30日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 2月 6日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 2月14日	永原・赤星・船田・佐藤	千田	
1934年 2月20日	永原・赤星・船田・佐藤	千田	
1934年 2月27日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 3月 6日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 3月13日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 3月22日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 3月27日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 4月 5日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 4月10日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1934年 4月17日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1934年 4月24日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 5月 1日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好

1934年 5月 8日	永原・赤星・船田・佐藤	千田	
1934年 5月15日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1934年 5月22日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1934年 6月 7日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 6月12日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 6月19日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1934年 6月27日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 7月 3日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 7月10日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 7月17日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 7月24日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1934年 7月31日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 8月 7日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 8月28日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 9月 4日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 9月13日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 9月18日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年 9月28日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年10月 2日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年10月 9日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年10月16日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1934年10月24日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年10月31日	三好・永原・赤星・船田	千田	三好
1934年11月 6日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年11月13日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年11月20日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年11月28日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年12月 4日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年12月11日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年12月18日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1934年12月26日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 1月15日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 1月22日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 1月29日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 2月 5日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 2月12日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 2月19日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 2月27日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1935年 3月 7日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1935年 3月19日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 3月26日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 4月 9日	三好・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 4月16日	三好・赤星・船田	千田	三好
1935年 4月23日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1935年 4月30日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 5月 7日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1935年 5月14日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 5月21日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 5月29日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 6月 4日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好

1935年 6月11日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 6月18日	三好・永原・赤星・船田	千田	三好
1935年 6月25日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1935年 7月 2日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 7月 9日	三好・永原・赤星・船田	千田	三好
1935年 7月16日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 7月23日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1935年 7月30日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 8月20日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 9月 3日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 9月10日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年 9月17日	三好・船田・佐藤	千田	三好
1935年 9月27日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年10月 1日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年10月 8日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年10月22日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年10月29日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年11月 5日	三好・船田・佐藤	千田	三好
1935年11月12日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年11月29日	三好・赤星・船田	千田	三好
1935年12月 3日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年12月11日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年12月17日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1935年12月23日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 1月 7日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 1月14日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 1月21日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 1月28日	三好・船田・佐藤	千田	三好
1936年 2月 5日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 2月18日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 3月10日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 3月17日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 3月24日	三好・永原・赤星・船田	千田	三好
1936年 3月31日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 4月 8日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 4月15日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 4月21日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 4月28日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 5月 6日	永原・赤星・船田・佐藤	千田	
1936年 5月19日	永原・船田・佐藤	千田	三好
1936年 5月26日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1936年 6月 2日	三好・永原・船田・佐藤	千田	三好
1936年 6月 9日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 6月16日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 6月22日	三好・永原・赤星・船田・佐藤	千田	三好
1936年 6月30日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1936年 7月 7日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1936年 7月14日	三好・永原・赤星・佐藤・武藤・伊藤	千田	三好
1936年 7月21日	三好・永原・赤星・佐藤・武藤・伊藤	千田	三好
1936年 7月28日	三好・永原	千田	三好

1936年 9月 1日	三好・永原・赤星・佐藤・武藤・伊藤	千田	三好
1936年 9月 8日	三好・永原・赤星・佐藤・武藤・伊藤	千田	三好
1936年 9月26日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1936年10月14日	三好・永原・佐藤・武藤・伊藤	千田	三好
1936年10月28日	永原・赤星・佐藤・伊藤	千田	三好
1936年11月17日	三好・永原・赤星・佐藤・武藤・伊藤	千田	三好
1936年12月 8日	三好・永原・赤星・佐藤・伊藤	千田	三好
1936年12月22日	三好・永原・赤星・佐藤・伊藤	千田	三好
1937年 1月22日	三好・永原・赤星・佐藤・伊藤	千田	三好
1937年 2月17日	永原・赤星・佐藤	千田	
1937年 2月23日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1937年 3月 2日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1937年 3月16日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1937年 3月30日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1937年 4月 6日	三好・永原・赤星・佐藤	千田	三好
1937年 4月20日	三好・永原・赤星・佐藤・武藤	千田	三好
1937年 5月19日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1937年 6月16日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1937年 6月29日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1937年 7月14日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1937年 7月21日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1937年 8月 3日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1937年 8月24日	三好・永原・武藤	千田	三好
1937年 9月15日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1937年 9月21日	三好・永原	千田	三好
1937年10月15日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1937年11月 6日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1937年11月25日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1937年12月11日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
寄附金記事			
1937年12月12日	1938年 1月27日		
1938年 1月28日	1938年 2月23日		
1938年 2月24日	1938年 3月 8日		
1938年 3月19日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1938年 3月30日	三好・永原・佐藤	千田	三好
1938年 4月23日	三好・永原・佐藤	千田	三好
1938年 6月 1日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1938年 6月29日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1938年 9月 9日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1938年10月25日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1938年11月18日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1938年12月14日	三好・永原・佐藤	千田	三好
1939年 1月27日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1939年 2月18日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1939年 3月24日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1939年 5月 5日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1939年 6月20日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1939年 7月 1日	三好・永原・佐藤・武藤	千田	三好
1939年 8月22日	三好・永原・武藤	千田	三好
1939年10月11日	三好・永原・武藤	千田	三好

1939年11月11日	三好・永原・武藤	千田	三好
1939年12月 2日	三好・永原・武藤	千田	三好
1939年12月23日	三好・永原・武藤	千田	三好
1940年 1月13日	三好・永原・武藤	千田	三好
1940年 2月 9日	三好・永原・武藤	千田	三好
1940年 3月 1日	三好・永原・武藤	千田	三好
1940年 3月16日	三好・永原・武藤	千田	三好
1940年 5月 9日	三好・永原・船田・武藤	千田	三好
1940年 6月12日	三好・永原・船田・武藤	千田	三好
1940年 7月 6日	三好・永原・船田・武藤	千田	三好
1940年 7月27日	三好・永原・船田・武藤	千田	三好
1940年 9月17日	三好・船田・武藤	森本	三好
1940年10月11日	三好・永原・船田・河手	森本	三好
1940年10月25日	三好・永原・船田・河手	森本	三好
1940年11月 1日	三好・永原・船田・加藤・河手・田中	森本	三好
1940年11月 8日	三好・永原・船田・斯波・河手	森本	三好
1940年11月22日	三好・永原・船田・田中	森本	三好
1940年12月 6日	三好・永原・船田・斯波・加藤・田中	森本	三好
1940年12月13日	三好・船田・加藤・田中	森本	三好
1940年12月20日	三好・永原・船田・斯波・加藤・田中	森本	三好
1940年12月27日	三好・永原・船田・斯波・加藤・田中	森本	三好
1941年 1月17日	三好・永原・加藤	森本	三好
1941年 2月 7日	船田・武藤・平井・斯波・田中	森本	船田
1941年 2月14日	船田・武藤・平井・加藤・田中	森本	船田
1941年 2月21日	船田・武藤・平井・田中	森本	船田
1941年 2月28日	船田・武藤・斯波・加藤・田中	森本	船田
1941年 3月 7日	船田・武藤・平井・斯波・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年 3月20日	船田・武藤・平井・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年 4月 4日	船田・武藤・平井・斯波・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年 4月11日	船田・武藤・平井・河手・田中	森本	船田
1941年 5月 2日	船田・武藤・平井・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年 5月16日	船田・武藤・平井・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年 5月30日	船田・武藤・平井・斯波・加藤・河手	森本	船田
1941年 6月27日	船田・平井・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年 7月 4日	船田・武藤・平井・斯波・河手・田中	森本	船田
1941年 7月11日	船田・平井・田中	森本	船田
1941年 7月18日	船田・平井・田中	森本	船田
1941年 8月15日	船田・武藤・平井・河手・田中	森本	船田
1941年 8月30日	武藤・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年 9月 5日	船田・武藤・平井・斯波・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年 9月19日	船田・武藤・平井・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年10月 3日	船田・武藤・平井・斯波・河手・田中	森本	船田
1941年10月24日	船田・平井・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年11月 7日	船田・平井・斯波・加藤・河手・田中	森本	船田
1941年11月14日	船田・平井・斯波・加藤・田中	森本	船田
1941年12月 5日	船田・武藤・平井・斯波・河手・田中	森本	船田
1941年12月12日	船田・武藤・平井・加藤・河手	森本	船田
1941年12月19日	船田・武藤・平井・加藤・河手・田中	森本	船田
1942年 1月16日	船田・武藤・平井・河手・田中	森本	船田
1942年 2月20日	船田・武藤・平井・田中	森本	船田

1942年 2月27日	船田・平井・河手・田中	森本	船田
1942年 3月13日	船田・武藤・平井・加藤・田中・河手・郷古	森本	船田
1942年 3月27日	船田・武藤・平井・河手・田中・郷古	森本	船田
1942年 4月10日	船田・武藤・平井・加藤・田中・郷古	森本	船田
1942年 4月27日	船田・武藤・平井・加藤・田中・河手・郷古	森本	船田
1942年 5月22日	船田・武藤・平井・田中・郷古	森本	船田
1942年 6月12日	船田・武藤・田中	森本	船田
1942年 6月19日	船田・武藤・加藤・郷古・小村	森本	船田
1942年 7月17日	船田・武藤・平井・田中・郷古	森本	船田
1942年 8月 7日	船田・武藤・平井・田中	森本	船田
1942年 9月11日	船田・武藤・加藤・田中・郷古・小村	森本	船田
1942年 9月25日	船田・武藤・平井・加藤・郷古・小村	森本	船田
1942年10月 2日	船田・武藤・平井・郷古	森本	船田
1942年10月23日	船田・平井	森本	船田
1942年11月13日	船田・武藤・平井・田中・小村	森本	船田
1942年11月27日	船田・武藤・田中・郷古・小村	森本	船田
1942年12月11日	船田・武藤・平井・加藤・田中・小村	森本	船田
1943年 1月22日	船田・武藤・平井・加藤・田中・郷古・小村	森本	船田
1943年 2月 5日	船田・武藤・平井・加藤・郷古・小村	森本	船田
1943年 2月12日	船田・武藤・平井・加藤・田中・小村	森本	船田
1943年 3月 5日	船田・武藤・平井・郷古・小村	森本	船田
1943年 3月26日	船田・武藤・平井・田中	森本	船田
1943年 4月23日	船田・平井・加藤・小村・上野(代)・原(代)	森本	船田
1943年 5月 7日	船田・武藤・平井・田中・小村・元良・高木(代)	森本	船田
1943年 5月28日	船田・武藤・平井・元良・田中・銀行高木(代)・鉱業鈴木(代)	森本	船田
1943年 6月 4日	船田・武藤・平井・加藤・小村・田中・原(元良(代))	森本	船田
1943年 6月18日	船田・武藤・平井・加藤・田中・元良	森本	船田
1943年 7月 9日	武藤・平井・加藤・元良・鈴木(小村(代))・上野(田中(代))	森本	船田
1943年 7月23日	船田・武藤・平井・加藤・小村・田中・元良	森本	船田
1943年 9月10日	武藤・平井・重工原(代)・鉱業鈴木(代)・銀行高木(代)・商事上野(代)	森本	
1943年 9月17日	武藤・平井・元良・商事上野(代)・鉱業鈴木(代)	森本	
1943年10月22日	武藤・平井・元良・銀行高木(代)・商事上野(代)・鉱業鈴木(代)	石黒	
1943年11月 5日	平井・元良・小村・銀行高木(代)・商事上野(代)	石黒	
1943年11月12日	加藤・元良・小村・平井・鈴木・商事上野(代)	石黒	
1943年11月19日	平井・鈴木・元良・田中・小村	石黒	
1943年12月 3日	加藤・元良・小村・平井・鈴木・商事服部(代)	石黒	
1943年12月17日	武藤・平井・鈴木・元良・銀行高木(代)・鉱業池田(乾)(代)	石黒	
1943年12月24日	武藤・平井・鈴木・元良・銀行高木(代)・商事服部(代)・鉱業池田(代)	石黒	
1944年 1月21日	武藤・平井・鈴木・加藤・小村・田中・重工原(代)	石黒	
1944年 2月 4日	加藤・小村・田中・武藤・平井・鈴木・重工原(代)	石黒	
1944年 2月18日	加藤・元良・武藤・平井・鈴木・商事上野(代)・鉱業池田(代)	石黒	
1944年 3月 3日	元良・田中・武藤・平井・鈴木・鉱業池田(代)・銀行高木(代)	石黒	
1944年 3月17日	田中・武藤・平井・鈴木・重工原(代)・銀行高木(代)・鉱業池田(代)	石黒	
1944年 3月24日	田中・武藤・鈴木・鉱業池田(代)・銀行高木(代)	石黒	
1944年 4月 7日	鈴木・加藤・田中・小村・重工玉井(代)	石黒	
1944年 4月21日	田中・小村・平井・鈴木・銀行高木(代)・重工原(代)	石黒	
1944年 5月5日	船田・加藤・田中・鈴木・鉱業是永(代)・重工原(代)	石黒	船田
1944年 5月19日	田中・小村・平井・鈴木・重工原(代)・銀行高木(代)	石黒	
1944年 6月2日	船田・加藤・商事服部(代)・重工原(代)・鉱業是永(代)	石黒	船田
1944年 6月16日	加藤・田中・元良・平井・鈴木・鉱業是永(代)	石黒	

1944年 7月 7日	加藤・元良・田中・平井・鈴木・鉱業是永代	石黒	
1944年 7月21日	平井・鈴木・銀行高木代・鉱業是永代・商事服部代・重工原代	石黒	
1944年 8月 4日	船田・平井・鈴木・田中・元良・鉱業是永代・銀行高木代	石黒	船田
1944年 8月25日	船田・鈴木・田中・元良・銀行木村代・鉱業富田代	石黒	船田
1944年 9月 4日	船田・平井・鈴木・加藤・田中・元良・小村	石黒	船田
1944年 9月15日	平井・鈴木・元良・田中・是永(鉱業小村)・高木(銀行加藤)	石黒	
1944年10月13日	船田・平井・鈴木・服部(田中)・原(元良)・是永(小村)	石黒	船田
1944年11月17日	加藤・小村・田中・元良・船田・平井・鈴木	石黒	
1944年12月 8日	船田・田中・小村・鈴木・木村(加藤)・原(元良)	石黒	船田
1944年12月15日	船田・平井・鈴木・加藤・小村・田中・原(元良)	石黒	船田
1945年 1月26日	加藤・小村・鈴木・玉井(元良)	石黒	船田・平井・ 田中欠席
1945年 3月 2日	船田・平井・鈴木・加藤・元良・田中・池田(小村)	石黒	船田
1945年 3月23日	平井・鈴木・田中・池田(小村)・原(元良)・高木(加藤)	石黒	
1945年 4月13日	休会(承認のみ)	石黒	
1945年 5月11日	船田・鈴木・加藤・田中・小村・田原(元良)	石黒	船田
1945年 6月22日	船田・平井・鈴木・加藤・田中・田原(元良)・池田(小村)	石黒	船田
1945年 7月20日	鈴木・田中・小村・高木(加藤)・玉井(元良)	石黒	
1945年 8月 3日	加藤・田中・小村・鈴木・田原(元良)	石黒	

(出典) 『寄附委員会議事録』第1～第4号(MA - 8038, 6306, 6307, 8670)。

(注) 空欄は、不明であることを示す。





1932年 6月15日	年記念事業				
	築地本願寺復興建築費寄附			当分留保のこと	
	生活改善同盟会寄附金	1,000円		前年通り援助のことに決議	
	国立公園協会寄附金	1,000円		本年度は減額援助の事に決議	
	小樽市庁舎改築資金の件			関係会社本店間の協議に移行	
	軍人会館寄附金	100,000円		既に50,000円寄附決定の	
				所、増額申出	
				前年通り援助のことに決議	
	英文毎日創刊十周年記念	50,000円			
	援助広告				
	国民新聞社援助金			断ることに決議	
	鮮満協会援助金			断り、やむを得ざれば300	
				円程度	
	紫雲荘橋本徹馬氏援助金の件	3,000円		援助のことに決議	
	土佐無産者病院建設資金			家庭事務所又は三菱製紙	
				の詮議に移す	
1932年 6月21日	日刊宗教通信社助葬部援助			当分見送りのこと	
	日本青年協会寄附金			年額5,000円・3年間の申出	
	高知県愛国飛行機献納に	10,000円		社長室会にて寄附決定	
	係る寄附金				
	土佐無産者病院建設資金	3,000円		家庭事務所と打合の上本	
				社名義で	
	東洋文化夏季大学援助金	1,000円		援助のことに決議	三井昨年2,500円、
					本年1,500円
	国民新聞社援助金			断ることに決議	
	二六新報社援助金			断ることに決議	
	事業之日本社援助金			断ることに決議	三井3,000円？
	国際連盟協会寄附金			2,500円振込の依頼	
	大社教立教五十年記念事	500円		寄附のことに決議	
	業寄附金				
	小樽市庁舎改築寄附金			関係各社間の協議に移す	
	我観社援助金	500円		500円に減額のことに決議	
1932年 6月29日	後藤新平伯伝記編纂会寄附金			金2,000円に増額申込	
	陸海軍将校婦人会国防献			一応社長へ御伺の上決定	
	金募集の件				
	日華実業協会会費の件			今回より商事負担に交渉	
	日満中央協会寄附金	500円		寄附のことに決議	三井50,000円
	朝野通信社寄附金	500円		前回同様援助のことに決議	
	高橋亀吉氏論集刊行援助				
	中小工組合連合援助				
1932年 7月 6日	竹越與三郎氏著述援助	3,000円		本年限り援助のことに決議	
	日米文化学会寄附金	2,000円		支出の旨報告	
	筒牛凡太氏第二革新会援助	2,000円		3,000円援助の決議のと	
				ころ、2,000円に減額	
	日華実業協会会費の件	500円		商事では従来会費負担に	三井合名・物産
				つき本社負担致方なし	各500円
	漢字新聞発行に付援助方申出	500円		支那觀察旅費の名目で500	
				円程度まで援助決議	
	政教社援助金	500円		援助のことに決議	三井2,000円
	高橋利雄氏関係露西亜通	500円		援助のことに決議	三井1,000円
	信社援助金				

1932年 7月13日	国際探訪通信社瀬尾栄太郎氏援助		従来の経過を取調の上考慮	
	京都帝国大学教授斎藤大吉氏遺暦記念論文集発行援助金		本件鉱業及製鉄にて取扱のこと	
	京城日報社主催新興満蒙博覧会援助金	1,000円	それ以上援助の場合には関係各社にて負担	三井・住友3,000円
	瀧之川学園寄附金	2,500円	寄附のことに決議	
	日独文化協会寄附金	3,000円2ヵ年賦		
	民友通信社山田道兄氏援助金			
	帝国飛行協会寄附金	150,000円	寄附あり度報告	
	軍人会館寄附金支払方の件		三井合名と打合のことで	
	民友通信社援助金	1,000円	500円決議から増額決議	三井2,000円
	政教社援助金	1,000円	500円決議から増額決議	三井2,000円
	国際探訪通信社瀬尾栄太郎氏援助	500円	臨機援助のことに決議	
	日蒙貿易協会石塚忠氏援助	1,000円	援助の旨報告	
	東京市会議員笠井重治氏		依頼あるも断ることに回答済	
	羅府オリンピック大会状況視察旅費援助			
1932年 7月14日	外交時報社半澤玉城氏援助	1,000円	援助金減額申送り今回限り従前額	
	大日本皇道奉賛会援助	50円	援助のことに決議	三井2,000円宛2回
	大日本救世会本田仙太郎氏援助	500円	援助のことに決議	
	癌研究会寄附金	3,000円	第三回年賦金振込報告	
	経済情報社援助金	300円	3,000円援助申出のところ左に決議	三井2,000円宛2回
	満州事変真相を世界に宣伝するパンフレット印刷援助	300円	援助のことに決議	三井1,000円
	昼夜通信社援助金		2.3ヶ月後詮議のこと	三井1,500円
	勤労青年塾設立資金援助	200～300円	設立援助を見合せ同氏に援助	
	東京教化同志会資金	100～200円	従前通り左金額援助	
	帝国飛行協会寄附金	100,000円	5ヶ年賦にて支払	三井100,000円
	東京市実業組合連合会事務所建築費援助金	5,000円	援助のことに決議	三井10,000円の意向
	平壤博物館建築資金寄附	5,000乃至7,500円	寄附のことに決議	三井5,000円の意向
	故渋沢栄一子爵屋敷跡暖依村荘保存資金援助		援助見合せのことに決議	
	中山博道氏有信館剣道道場改築費援助	10,000円	寄附のことに決議	
1932年 7月20日	満州上海事変戦死者慰霊国民大法要執行費用援助	300円	援助のことに決議	三井300円
	満州大博覧会援助金		取調の上考慮	
	斎藤貢氏援助金		従前通り援助願出の処半減し援助	三井1,000円
	皇道義会援助金		本年2月援助につき今回見送り	三井今春3,000円, 今回500円
	麹町区凱旋軍人歓迎会費援助	200乃至300円	援助のことに決議	
	福島県耶麻郡木幡村小作		返事を出さず握りつぶし	

1932年 7月27日	労働組合長佐藤某陳情		のこと	
	国技館満州国博覧会寄附金	1,000円	援助に三井合名と打合せ	
	神田神社新築寄附金	10,000乃至15,000円	寄附のことにし其の一部	三井25,000円
	最近工学普及会援助		銀行負担	
1932年 7月28日	政治経済時論峰整造援助金	300円	造船・鉱業負担にて今一	
	忠勇顕彰会寄附金		応取調の上委員会に更に	
	厳島神社宝物殿新築寄附金		提議	
	経済情報社援助金	500円	減額援助のことに決議	
1932年 7月28日	小山田剣南氏援助金(国家	500円迄の範囲	懸案として更に詮議のこと	
	社会主義排撃私有財産肯定		援助のことに決議	三井2,000円宛2回
	原理に関するパンフレット		今回に限り援助のことに決議	
	刊行に付)			
1932年 8月17日	二六新報社援助金		断ることとす	三井2,000円
	東京基督教青年会事業費		援助見合せのこととす	
	援助方			
	政治経済時論社援助金	500円	今回に限り援助のことに決議	
1932年 8月17日	和気清麿公生誕千二百年	1,000円乃至1,500円	寄附のこととす	
	大祭並記念事業費寄附金			
	関東州模範農村移住者後援会	500円	援助のことに決議	
	吉備 集成刊行会援助	100円	本社負担にて鉱業会社名	
1932年 8月17日	モダン・ジャパン刊行会援助		義を以て申込	
	日本赤十字社京都支部病		一度断ることに決議	
	院新築資金援助		申出報告	
	大日本職業指導協会援助		申出報告	
1932年 8月17日	大日本聯合婦人会援助		三井とも打合の上何ら決定	
	国立公園協会寄附金		援助見合せのことに決議	三井本年2,000円,
	一心会援助金			1,500円各一回
				三井500円
1932年 8月17日	東京 愛育学校寄附金	500円	援助のことに決議	
	海洋水産化学研究所設備		商事意向確めの上何らの決定	
	資金援助			
	雑誌「日本計画経済」発行		断ることに決議	
1932年 8月31日	大日本職業指導協会援助		当分懸案として保留のこと	
			とす	
	横浜国防後援会寄附金	1,000円	関係各社にて分担の事とし	
			2,000円寄附の必要ある	
1932年 8月31日			場合は本社にて1,000円負担	
	山元亀次郎氏(日本国家社会	1,000円	援助のこととす	
	党員)援助			
	日本赤十字社京都支部病		50,000円寄附方の申出断	
1932年 8月31日	院建設資金援助		ることに決議	
	国民防空協会寄附金		援助見合せのこととす	
	社会事業義金		政府当局其他各方面の意見	
			を通じ具体案決定	

	北満水害救済義捐金 全国産業団体連合会及日本工業倶楽部寄附金 癌研究会寄附金	50,000円 計5,000円 10,000円	寄附申込済 支払方決議 第2回年賦金10,000円振込 方の通知 次回に詮議 申出断ることとす 願出断ることとす	三井50,000円
	報知新聞社援助金 松尾小三郎氏援助 権藤成郷氏自治学院援助方 モダン・ジャパン刊行会援助		執拗に来社の処以前決議の 通り援助見合のこととす 援助のことに決議	安田1,000円
	全日本私設社会事業連盟 援助金 楠公顕彰会寄附金 大阪時事新報社援助金	1,000円	本社無関係、関係各社間 協議の上処理のこと 従前通り2,000円援助のこと 数回願出の処援助決定 援助のことに決議 醸出のこととす	三井1,000円(社長夫人名義)
	国立公園協会寄附金 昼夜通信社援助金 柴原重二氏講演費用援助 陸海軍将校婦人会寄附金	2,000円 500円 1,000円 1,000円		
1932年 9月 7日	外務省文化事業部第1課長 法学博士三枝茂智氏著書 出版援助 東京児童会館援助金 細井肇氏「爛熟日本の現状」出版援助金 高輪消防署改築後援会寄附金	50部(20,050円相当) 300乃至500円 3,000円	買取ることとす 援助のことに決議 援助見合せのこととす 寄附のことに決議す	三井3,000円, 三井元之助氏邸2,000円
1932年 9月14日	東京府教職員互助会病院 建設資金募集の件 常陽明治記念会館寄附金	5,000円	金300,000円一般寄附募集 の旨報告 三井合名と打合せの上寄 附を決す 小林一郎氏著「仏教綱要」 買取り	
	大乘仏教出版物援助	50部(1部7円)	援助のことに決議 当分保留追て詮議のこと 広告掲載願出断ることとす 本件追て詮議のこと 援助のことに決議	三井2,700円, 安田1,850円
	報知新聞社援助金 洪沢青淵翁記念会寄附金 ジャパン・タイムス社援助金 大日本職業指導協会寄附金 東京毎日新聞社援助金	3,000円 500円		
1932年 9月21日	北海道倶楽部寄附金 愛国恤兵財団助成会役員の件 修養団満州連合会寄附金 実業之日本社援助金 ジャパン・タイムス社援助金	10,000円 10,000円 300円	寄附金10,000円の内第4回 分2,000円払込の旨報告 評議員に推薦に付承諾方 書面申越 寄附のことに決議 援助のことに決す 再度詮議懇願ありたるも 見合せに決す	住友10,000円 三井300円

1932年 9月28日	東京楠公会寄附金	300円	承諾のこととす	
	神田神社新築寄附金支払方法の件	15,000円	内5,000円は銀行負担	
	モダン・ジャパン刊行会援助	300円	援助のことに決議	
	日本農士学校寄附金	10,000円	寄附のことに決議	
1932年 10月5日	満蒙資源館寄附金	3000円	援助のことに決議	
	紫野大徳寺龍宝館寄附金		追て詮議のことに決議	
	神戸市金比羅神社建立		書面申越の旨報告	
	工業之日本社援助金		援助方申越の処取調の上追て詮議	
1932年 10月12日	長崎市高射砲献納寄附金	25,000円	社長室会にて寄附のことに決定	
	皇民会援助金	3,000円	本年度まで、来年度からは減額	
	日本基督教婦人 風会東京婦人ホーム援助金	200円	援助のことに決議	
	読売新聞二万号記念の件	2,000円	援助のことに決議	
1932年10月12日	中外商業新報社創刊五十五周年記念の件	3,000円	援助のことに決議	
	明治神宮講会館援助		取調の上追て詮議	
	東京府市教職員互助会病院建設の県		来社の旨報告	
	北海道水害凶作救済会寄附金	50,000円	社長室会にて寄附のことに決定	
1932年10月19日	明治神宮祭奉祝会寄附金	1,000円	昨年同様寄附のことに決定	
	護国義勇団創立費援助		本件見送りのことに決議	
	明治神宮講会館増営援助金		丸尾重吉氏の話を直接聴取り且講館の現状を实地に見聞することとす	
	東亜研究会援助申出の件		断ることとす	
1932年10月19日	反マルクス学会鈴木鷲山氏援助金	200円	年額500円程度として此際は200円	
	東京帝国大学仏教青年会	500円	援助のことに決議	
	経常費援助金			
	前独乙大使ゾルフ博士古稀誕辰記念品寄贈の件	10円		
1932年10月19日	橋本徹馬氏援助金	500円	援助のことに決議	
	渋沢青淵翁記念品寄附金	10,000円	寄附のことに社長室会にて決定	
	東京慈恵会病院復興拡張資金寄附金払込の件	10,000円	寄附金50,000円	
	大日本職業指導協会寄附金	2,000円	援助のことに決議	安田3,000円宛3年間
1932年10月19日	公民教育会援助金	1,000円	本年限り援助し明年度より見合せ	
	ジャパン・アドヴァーター社援助金	1,000円	援助のこととす	三井1,000円
	前政友会代議士二見甚郷氏渡欧費の件		援助見合せのこととす	
	北海道水害凶作救済会寄附金	100,000円	社長室会議にて決定	

	修養団満州連合会寄附金		5,000円追加寄附申出、追 て詮議	
	護国義勇団援助の件		当分見送りのこととす	
	海洋水産化学研究所設備 費寄附の件		申出ありたる旨報告	
	帝国学士院学术研究奨励 金の件	1,000円	支払方書面申越旨報告	
	ジャパン・アドヴァータ イザー、オリンピック特 別号発行援助金	1,000円	1,000円援助のことに決議	
	帝都日々新聞社援助金		断ることとす	
	日刊宗教通信社助葬部援 助の件		援助見合せのことに決議	
	公民教育会援助金	1,000円	援助のこととす	
	反響社津田隆司氏援助の件		断ることに決議す	
	日本第一新聞社援助の件		断ることに決議す	
	新民会援助金	1,000円	援助のこととす	
	細井肇氏援助の件	250乃至300円	援助のことに決議す	
	経済智識社援助金	1,000円	援助のことに決議す	
1932年10月26日	細井肇氏著「日本の決意」 出版援助の件	500円	再議の上500円援助のこ とに決議す	
	少年団日本連盟助成会寄附金		追て詮議考慮のこと	
	昭和協会援助金	300円	断ることに決議す	
	東北帝大海洋水産化学研 究所寄附金		書面にて願出ありたる旨報告	
	明徳会塩谷慶一郎氏援助金	1,000円	懸案として留保のこととす	三井1,000円
	大日本救世会本田仙太郎 氏援助		援助見合せのこととす	三井1,500円宛年2回
	事業之日本社援助		断ることとす	
	修養団満州連合会追加寄附金	5,000円	追加寄附の件追て詮議の こととす	
	日本農民美術研究所寄附金		追て詮議のこととす	
	帝国工芸会寄附金		本件懸案として留保のこ ととす	
	日刊工業新聞社援助金		商事其他取調の上詮議の こととす	
	航空燈台献納会寄附金		本社援助見合せのこととす	
	万国婦人子供博覧会寄附金	精々3,000円迄	寄附のことに致度追て詮 議のこと	
	紫野大徳寺龍宝館寄附金	5,000円	寄附のことに決議す	
1932年10月29日	日本栄養協会寄附金		後日詮議のこととす	
	やまと新聞社援助金	1,000円	援助のことに決議す	
1932年11月 1日	東京帝国大学セツルメン ト援助金	1,000円	援助のことに決議す	
	日本青年館寄附金	5,000円	支払済の旨報告す	
	日本性病予防協会寄附金		追て詮議のこととす	
	日刊工業新聞社援助金	300円	援助のことに決議	
	事業之日本社援助		懇願ありたるも援助見合 せとす	
	自由通信社援助金		援助断ることとす	

	森傳氏著書買取方の件	2,300冊(1冊50銭)	買い取ることとす	
	大阪殉職警官救慰基金寄附金	5,000円	本社主義にて寄附し、銀行・商事・倉庫・鉱業・保険・信託六社分担	
1932年11月 7日	中央満蒙協会援助金	1,000円	承諾のことに決議す	
	山元亀次郎氏援助金		別口援助申出断ることとす	
	代議士鷺沢與四二氏渡欧費		断ることに決議す	
1932年11月14日	日本農民美術研究所援助金	1,000円	援助のこととす	
	忠勇顕彰会の件		断りたる旨報告す	
	明治大学籠球部米国遠征の件		援助見合せのことに決議す	
	神田神社復興建築費の件		三井合名と同様に25,000円寄附懇請あり追て詮議のこととす	
	京城帝国大学図書館の件	300,000円	断ることに既に回答済の報告	
	上海漢字新聞江南正報の件		銀行・商事・倉庫本支店に於て処理のこと	
	明徳会塩谷慶一郎氏至善寮創設の件		援助見合せのこととす	
	日本思想社遠藤友四郎氏援助の件	500円	援助のことに決議す	
	宿利重一氏著「莊田平五郎」傳の件		援助見合せのこととす	
1932年11月22日	大阪日々新聞関西日報援助の件	500円	本年限り最高500円迄援助	
	極東協会張正行氏援助の件	100円	援助のこととす	
	黒龍会出版部の件	2,000円	援助のことに決議す	三井2,000円
	大日本国粋会関東本部の件	3,000円	援助のことに決議す	三井2,000円
	共愛会山口恭佑氏援助の件		実情取調の上追て詮議のこととす	
	政界情報社の件	200円宛2回(年400円)	考慮のこととす	
1932年11月29日	北海道及青森県地方水害凶作義捐金払込の件	100,000円	払込法三井合名と打合せのこととす	
	公益事業の為300万円を政府当局其他意見を徴し各団体に寄附、其一部使途具体案につき船田委員より報告			
1932年12月6日	被服協会寄附金	10,000円寄附願	取調の上次回協議のこととす	
	昭和協会援助金	200円迄	援助するや否や総務課長に一任	
	仏教音楽協会寄附金	2,000円	本年度は援助、明年度より援助見合せのことに決議す	
	神田神社復興建築資金	25,000円	社長室会議にて寄附金額変更	
	勤労青年塾津久井龍雄氏の件	200円迄の範囲	援助のこととす	
	共愛会山口恭佑氏の件		援助異議なきも今一応取調の上追て決定	
	国家社会党山元亀次郎氏の件		更に援助方執拗に申出の処断ることと決す	



1932年12月13日	鹿苑学院平川法然上人の件	500円迄の範囲	援助見合せのこととす 已むを得れば援助考慮のこととす 一応取調の上詮議のこととす	
	満州上海事変尽忠録の件			
	明治天皇御集昭皇太后御集の件	500円迄丈 1,000円	援助のことに決議す 可成造船電機二社名義にて援助のことに決議す	三井1,000円
	外交時報社援助 少年少女雑誌「サイエンス」の件			
	紐育「ジャーナル・オブ・コンマース」日本特別号の件	500円	援助のことに決議す 援助のことに決議す	
	東京大勢新聞社援助金			
	やまと新聞社援助金	500円		
	京都市左京区在郷軍人会館基金の件	500円		
	国際連盟協会経費援助	2,500円	私込方申越りたる旨報告	
	北海道在京学生会の件	5,000円	援助のことに決議す	
1932年12月20日	我觀社援助の件	300円	援助のこととす	
	万国婦人子供博覧会の件	サンタリウム・ホスピタルの件	理事会にて協議のこととす 調査の上詮議のこととす	
	日本ローマ字会の件			
	愛国会満州上海事変尽忠録	1,000円	追て詮議のこととす 三井とも打合援助のことに決す	三井1,000円
	神田正雄氏援助金	1,000円	援助のこととす	
	東京市浅草一泊所の件	1,000円	援助のことに決議す	
	紐育「ジャーナル・オブ・コンマース」日本特別号の件	10,000円	援助のことに社長室会にて決議	
	被服協会の件	10,000円	援助のことに決議但し社長室会議に付議のこと	
	神田正雄氏渡満旅費援助	1,000円	援助済の報告あり	
	国際連盟協会の件	3年間年額6,000円	援助の申出承諾のこととす	
1932年12月27日	外交時報社半澤玉城氏援助の件	500円	援助のこととす	
	露西亜通信社の件	500円	援助のことに決議す	三井500円
	愛国会編纂尽忠録の件	3,000円		
	化学工業協会の件	500円(特別会員費)	支出の旨報告	
	仏教音楽協会の件	3,000円	本年に限り援助のことに決議	
	紫雲荘橋本徹馬氏援助	1,000円	援助のことに決議す	
	政教社の件	1,000円	援助のことに決議す	三井2,000円宛2回
	報知新聞社の件	3,000円	援助のことに決す	三井10,000円
	朝野通信社の件	500円	援助のことに決す	
	自由通信社の件	300円	援助のこととす	
1933年 1月17日	内鮮婦人会の件	200円	今回限り援助のこととす	
	愛国恤兵財団宣伝運動の件	500円	援助のこととす	
	護国共済会の件			
	万朝報の件		援助一応断ることとす	
	紫雲荘の件	1,000円	援助のことに取極の処請 取らざりし件報告 計1,000,000円5カ年継続にて寄付金募集の件	
	早稲田大学創立五十周年記念事業の件			

1933年 1月24日	婦人子供博覧会の件		三井にては50坪特設館設置計画の報告	
	明光会の件	15部(1部20円)	買取ることとす	
	実業之世界社の件	2,000円	援助のことに決議す	
	在米同胞孤児救護其他社会事業援助の件	3,000円迄	援助のことに決議す	
	東京帝大地震研究所浅間山火山観測所設置の件	1,000円	援助承諾のこととす	
	財政経済時報社の件	500円	援助承諾のこととす	
	政治経済時論社の件	500円	援助のこととす	
	大日本関東国粋会本部理事長梅津勘兵衛氏の件	2,000円	援助のことに決議す	安田保善1,000円
	大陸通信社山元亀次郎氏の件	500円	援助承諾のこととす	
	建国祭の件	2,000円	援助のことに決議す	
1933年 1月31日	護国共済会の件			
	京城錦華寮の件	300円迄の範囲	商事京城支店名義にて援助のこととす	
	築地本願寺の件	10,000円	寄付のことに決議す	
	昭和七年中支出寄附金増額の件			
	国民工業学院の件		鉱業造船等の意見を聞き追て詮議のこと	
	日本電報通信社の件	1,500円	援助申出のところ承諾のこととす	
	不二通信社藤本秀之助氏の件	300円	援助のこととす	
	経済情報社の件	従来通り500円	援助のことに決議す	
	早稲田大学創立五十周年記念事業の件		寄付金募集の件につき更に申出	
	日本開国社山田毅一氏の件		援助見合せのこととす	
1933年 2月 7日	市俄古進歩一世紀万国博覧会の件		10万円寄付につき追て詮議のこと	
	各新聞、通信援助金の件(13件)			
	帝国軍人後援会京都支会の件	2,000円	追て詮議のこととす	
	日本新聞社の件	1,000円	援助のことに決議す	三井1,500円
	大日本国防教育会の件	15部(375円)	買取のことに決議す	三井500円
	都新聞社の件	1,500円	援助広告のことに決議す	
	朝鮮鉱業会の件	5,000円	合資鉱業製鉄にて負担合資会社名義にて醸出のことに決議	
	国民工業学院の件	3,000円	援助のことに決議す	三井5,000円
	山元亀次郎氏より援助申出の件		援助見合せのことに決議す	
	川合清丸全集刊行会の件		申出断ることとす	
1933年 2月14日	清水次郎長会の件		申出断ることとす	
	全国産業団体連合会の件	2,500円	振込方申出ありたる旨報告	
	報効会の件	20,000円	払込方書面申越の旨報告	
	癩予防協会の件	20,000円	支払方申越の旨報告	
	帝国通信社の件	500円	援助のことに決議す	
	昼夜通信社の件	500円	援助のこととす	

1933年 2月21日	事業之日本社の件	500円	援助のことに決議す	三井1,000円 三井昨年3,000円・ 対大日社1,000円
	日本ローマ字会の件	1,000円	今回限りとして援助のことに決議す	
	宅野田夫氏援助金の件	1,000円	同氏関係の大日社に対し援助	
	乃木講元の件 万国婦人子供博覧会協賛会の件		235,000円募集の件に付詮議 50,000円寄付願出・三井 共打合追て取極	
	ジャパン・タイムスの件 大本山総持寺社会事業部の件 朝鮮鉾業会の件	30部(金300円) 3ヶ年賦にて 10,000円	買取することに決議 取調の上詮議のこととす 寄付申込済の旨報告	
1933年 2月28日	肉弾三勇士銅像建設会の件 雑誌「近代」援助方の件		援助願出追て詮議のこと 申出一度見送りのことに 決議す	三井50部 三井とも打合の上
	大日本国防義会の件 万国婦人子供博覧会協賛会の件	2,000円 10,000円	援助のこととす 寄付のことに決議す	
	一心会の件 東北帝大海洋水産化学研究所の件	200円乃至300円	決定を見送ることとす	
1933年 3月7日	三陸地方震災義捐金の件	30,000円	社長室会議にて援助決定・ 本日払込済	三井4,000円 三井3,000円(通常1,000円) 三井2,000円 三井1,500円宛年2回 住友・安田3,000 円宛3年間、三井 5,000円宛3年間
1933年 3月14日	帝国発明協会の件	500円	本年度払込決定	
	朝鮮拓殖農園の件	500円	援助の事に決議す	
	ローマ字ひろめ会の件		援助につき取調の上詮議	
	傷疾軍人及兵役義務者待遇改善期成会の件	200円	援助の事に決議す	
	神奈川県警察官病院建設の件		岩崎家より20,000円寄附 申出・追て詮議	
	第二革新会の件	2,000円	援助の事に決議す	
	経済雑誌ダイヤモンド社の件	2,000円	援助の事とす	
	東京日々新聞社の件		特別援助方申出・追て詮議の事	
	大日本救世会本田仙太郎氏の件	500円	援助のことに決議す	
	中央報徳会の件	5,000円	本年限り援助願出を承諾	
1933年 3月22日	読売新聞社の件	2,000円	本年中今回限りとして援助決議	三井、出品協会 10,000円、蚕糸 関係3,000円
	東京帝国大学仏教青年会の件	300円年2回程度	援助のこととす	
	日本工業協会の件	2,000円(本年度分)	銀行大阪支店にて立替支払済報告	
	長崎市高射砲献備付計画の件		寄附正式手続の上支払致 度長崎造船所より通知	
	市俄古万国博覧会の件	出品協会に 10,000円、蚕糸 関係に日本生糸	寄附のことに決議す但社長 室会議の決議を経ること	

1933年 3月28日	昭協会の件	又は三菱商事名義で5,000円 300円(三菱商事名義)	援助のこととす	
	経済情報の件		下期分500円繰上支払申出 断りたる	
	ジャパン・アドヴァーターの件	2,000円	広告援助方申出承諾の事 に決議	三井2,000円
	神奈川県警察官病院建設の件	15,000 円 乃至 20,000円	神奈川県下岩崎家並に三 菱関係として醸出を決議	
	小泉八雲記念会の件	300円(社長個人 名義)	援助のこととす	
1933年 4月 4日	日華学会の件		4,000円援助申出追て詮議 のこと	
	市俄古万国博覧会茶業組 合出品援助の件		三井同様20,000円援助申 出追て詮議	
	ローマ字ひろめ会の件	2,000円	今回限りとして援助のこ とに決議	
	理化学研究所の件	125,000円	本年度に限り寄附決定手 続完了	
	朝鮮鉱業会の件	4,000円(寄附金 10,000円の内)	鉱業京城出張員より勘定 報告	
	市俄古万国博覧会茶業関 係出品費援助の件	5,000円	三菱商事名義にて寄附申込済	三井(合名)20,000円
	市俄古万国博覧会蚕糸業 関係出品費援助の件	10,000円	三菱商事名義にて寄附申込済	三井(合名)30,000円
	三菱経済研究所の件	30,000円	支払済の件	
	日華学会欠損金の件	1,000円	支払済の件	三井3,000円、正 金1,000円、門野 氏500円、内藤 氏500円
	社会事業デーの件		100円程度にて援助取計	
1933年 4月11日	国民運動社の件	2,000円	援助のことに決議す	三井5,000円
	高千穂学校の件		寄附(3,000円)断ることに 決議す	
	ジャパン・ツーリスト・ ビューロの件	2,000円	昭和8年度会費振込承知の 回答	
	海軍協会の件	3,000円	昭和8年度分支払済報告	
	アマゾン産業研究所の件	25,000円	本年限り醸出のことに社 長室会議にて決定	
	「チャイナ・ダイジェスト」 の件	600円	援助のことに決議す	三井1,000円、正 金400円
	南洋協会の件	1,000円	本年度においても援助承諾	三井1,000円
	民衆通信の件	500円	援助	三井・安田500円
	国際統計会議後援会決算 残金の件	1,800円	寄附申越承諾	
	法政大学世界経済研究所の件	2,000円	今回に限り援助	三井1,000円、安 田2,000円
	帝国水難救済会の件		三井合名とも打合の上追 て詮議	

1933年 4月17日	麹町兵事義会の件	3,000円	寄附のことに決議	
	聯合情報社田中朝吉氏依頼の件	1,000部(400円)買取	買取ることとす	三井2,000円
1933年 4月25日	渋沢青淵翁記念会の件	10,000円(年額2,000円・5年)	打合せの旨報告	
	帝国在郷軍人会の件	2,500部(1,000円)	規約改正の旨説明の報告	三井2,000円
1933年 4月25日	陸軍大臣荒木貞夫氏述「皇国の軍人精神」の件	1,000円	援助	三井1,000円
	肉弾三勇士銅像建設会の件	3,000円	5000円援助願出・追て詮議	
1933年 4月25日	中央満蒙協会の件	5,000円	援助申出・承諾	
	帝国水難救済会の件	200円	援助(三井とも打合の上)維持費申出・留保	三井例年1,000円
1933年 4月25日	京都日独文化協会の件	1,000円	従来通り援助	三井1,500円・安田1,000円
	東洋経済新報社の件		今回だけは援助・次回より減額	
1933年 5月23日	経済智識社の件	1,000円	援助申出・追て詮議	三井昨年1,500円
	杉山検校遺徳顕彰会の件	1,000円	援助のことに決議	
1933年 5月23日	海外之日本社の件	500円	援助申出・追て詮議	
	東洋協会の件		今回だけは援助	
1933年 5月23日	相愛学園の件		本社一部負担(計15000円中)問合せ・出品各社間にて按分負担のこと	
	満州博覧会特設館の件	3,000円(2年分として)	援助のことに決議	満鉄5,000円・三井3,000円・大倉2,000円
1933年 5月23日	満蒙資源館の件	30,000円(関係各社負担)	寄附のことに決議	川崎20,000・神戸製鋼20,000・鐘紡20,000・三井15,000
	神戸防空設備費献金の件		援助申出・取調の上詮議	住友3個分(1個160円)
1933年 5月23日	東郷元師胸像の件	15,000円(追加で5,000円)	援助申出・取調の上詮議	
	市俄古万国博覧会出品協会の件		申出承諾	
1933年 5月23日	国際統計会議後援会返還金の件		申出当分見送り	
	帝国船級協会解散の件			
1933年 5月30日	神戸防空設備費献金の件	年額15,000円(2年間)	援助のことに決議	
	帝国在郷軍人会謝状並に寄贈品の件		秘書役投のこととす	
1933年 5月30日	京都川端警察署備付サイドカー及自動車修繕費並維持費の件	精々1,000円迄	三井とも打合せの上援助決議	
	四海兄弟社杉謙二氏の件		寄附申出・一般成績実地調査の上考慮	
1933年 5月30日	総持寺社会事業部の件		追て詮議	
	山内両公別格官幣社奉祀期成会の件	3,000円	支払済の旨報告	
1933年 5月30日	家庭学校の件			

1933年 6月6日	海軍協会の件	年額5,000円・5年間	社長室会議にて決定の旨報告	
	東郷元師胸像の件		断ることとす	
	日本興国同盟の件		援助見合わせのこととす	
	共立女子専門学校、共立女子職業学校の件		援助願出・追て詮議	
	海外植民学校の件	100円宛5年間	援助申出・承諾	
	山内両公別格官幣社奉祀期成会の件	15,000円	御両家より醸出の旨報告	
	サッポロ・グランドホテル創立の件		地方問題につき断ることとす	
	時事新報主催下級通信従業員慰安会の件	2,000円	例年通り広告料だけ援助	
	上海発行英文雑誌遠東時報の件	4,800円	申越承諾のことに決議す	三井4,800円
	茶業組合中央会議所の件	2,000円(追加)	三菱商事名義にて追加援助	
1933年 6月14日	忠勇顕彰会の件	年額1,000~1,500円3年間だけ	援助のことに三井と打合わせ	
	日本学術振興会の件	500,000円(5ヶ年賦)	寄附のことに決定の旨報告	
	京城帝大満蒙文化研究会の件		商事鉱業にて取り扱うことに決議	三井物産1,000円
	新聞連合社の件		援助申出・追て詮議	
1933年 6月20日	大日本国防教育会の件		援助見合わせのことに決議	
	栗原彦三郎氏造刀工場の件		援助願出・三井とも打合せの上追て詮議	
	総持寺社会事業部の件	1,000円	援助のことに決議す	
	教学新聞の件	400円	援助承諾	
	大垂細垂協会の件		三井とも打合せの上更に詮議	
	本郷区及麻布区防護団の件		追て詮議のこと	
	忠勇顕彰会の件		寄附申出(25,000円)追て詮議	
	麻布区防護団の件	1,000円(やむを得ざれば2,000円)	三井とも打合せの上援助決議	
	帝国森林会の件		追て詮議	三井3,000円宛5年
	東京基督教青年会の件		三井の意向問合せの上取極め	
1933年 6月27日	京都市左京区在郷軍人分会の件	500円増額(既に500円)	銀行京都支店より申越承諾	住友500円増額
	東北帝大海洋水産化学研究所の件	5,000円(やむを得ざれば三井同様10,000円)	寄附決議・但社長室会に付議	
	大日本救世団の件	500円	援助	三井年3,000円
	肉弾三勇士銅像建設会の件	1,500円	援助決議(三井とも打合せの上)	
	太平洋問題調査会の件	10,000円	援助の事に社長室会にて決議報告	
	共立女子専門学校、共立女子職業学校の件	10,000円	寄附の事に社長室会にて決議報告	
	帝国森林会の件		今一応取調・追て詮議	
	朝野通信社の件	500円	援助・従前通り	
	万朝報社の件	500円	援助のことに決議	三井本年3月1,000円・5月1,500円

1933年 7月 4日	事業ノ日本社の件	500円	援助	三井2月頃1,500円
	東京統計協会の件		三井聞合の上追て詮議	
	黒龍会の件	1,000円	三井共打合の上援助決議	
	東京基督教青年会の件	500円乃至1,000円	三井と打合せ援助決議	
	札幌市外八紘学園の件		援助願出・取調の上追て 詮議	
	麹町区防護団の件	2,000円乃至3,000円	援助のことに決議	
	日本計画経済社の件		可成断り一応取調追て詮議	
	京都府国防協会の件		銀行京都支店より通知・ 追て詮議	
	満州産業建設学徒研究団の件	5000円	援助のことに決議	
	長崎日々新聞社の件	3,000円乃至5,000円	援助(合資2・商事2・造船 1の割合)	
1933年 7月 12日	東京警察後援会の件		50,000円の内5,000円振込申越報告	三井1,500円 三井2,000円 三井年1,500乃至 2,000円宛3年間
	帝国新報の件	500円	援助	
	政教社の件	1,000円	援助決議	
	帝国森林会の件	年額1,000円3年丈	援助決議	
	国際探訪通信社の件	500円	援助	
	やまと新聞社の件	2,000円	援助決議	
	早稲田大学創立五十周年 記念事業の件	年額10,000円宛5年	三井と打合せの上・寄附の ことに社長室会に付議決議	
	東京基督教青年会の件	500円	援助(三井と打合せの上)	
	日本思想社遠藤友四郎氏の件		援助断り・10月頃考慮	
	ジャパン・アドヴァタイ ザー新聞社の件		商事にて取り扱い本社無 関係の事に決議	
1933年 7月 14日	万国議員会議の件		援助見合わせの事と決議	三井見送り
	東京統計協会の件	1,000円程度	三井と打合せの上援助決議	
	満州産業建設学徒研究団の件	10,000円	寄附の事に社長室会にて 決定報告	
	慶大、早大の件	50,000円5ヶ年賦	寄附申込済報告	
	桑港社会事業館の件		寄附可成断り度・三井と も打合追て詮議	
	日本日曜学校協会の件		援助見合わせの事に決議	
	靖国神社忠魂史の件		援助申出・追て詮議	
	日本労働者教育協会の件		援助申出・追て詮議	
	外交時報社の件	年額1,500円の範囲	援助決議	
	全国産業団体連合会の件	1,500円	振込方申越承諾	
1933年 7月 18日	全満州婦人団体連合会の件		援助願出・商事大連支店 にて取調追て詮議	三井1,000円宛2回 三井5,000円援助
	明治財政史の件	2部(480円)	申込のこととす	
	日本興国同盟の件		援助見合せのことに決議す	
	大亜細亜協会の件	3,000円	援助のことに決議す	
	全国産業団体連合会の件	5,000円	払込方申越承諾	
	帝都日々新聞社の件	5,000円	援助決議	
	国立公園協会の件	2,000円	援助	
	政治経済時論社の件	500円	援助	
	東洋協会の件		援助見送りの事に決議	
	全日本陸上競技連盟の件	年1,000円3年間丈	三井共打合せの上やむを得 ざれば承諾	

1933年 7月25日	癩予防協会の件	20,000円	払込済報告	住友5,000円宛3年間
	癌研究会の件	3,000円(15,000円内)	支払済報告	
	忠勇顕彰会の件	年額5,000円宛3年間	寄附決議	
	山田穀一氏の件	1,000円	援助	
1933年 8月1日	松田竹千代氏の件		永井拓相とも打合せの上詮議	三井1,000円
	海外教育協会の件	20,000円	三井の振合を見て援助のこととす	
	鳥居龍蔵博士の件	1,000円	援助のこととす	
	報知新聞社の件		増額援助申出断ることとす	
1933年 8月1日	日本基督教連盟の件		援助願出・係にて処理のこと	三井500,000円5年賦
	修養団後援会の件	10,000円(50,000円内)	送金方書面申越報告	
	帝都防衛費寄附金の件	年100,000円宛5年(計500,000円)	寄附の事社長室会にて決定・三井とも打合せの上	
	弘法大師報讃会の件		寄附願出・追て詮議	
1933年 8月15日	有隣会の件	1,000円	援助のことに決議	三井10,000円
	八紘学園の件		援助申出・不審の点あるに付取調の上追て詮議	
	靖国神社忠魂史の件		取調べのところ三井とも打合の上詮議	
	瀧之川学園の件		2,500円援助(三井と打合せ)・一応実地調査	
1933年 8月29日	大日本聯合青年会の件	10,000円乃至15,000円	支払いのこととす	三井1,000円
	社債制度調査会板橋菊松氏援助金の件		銀行信託の意見問合の上課長において処置	
	帝都防衛費の件	100,000円	年賦金100,000円振込報告	
	海外教育協会の件	20,000円	20,000円本日支払い	
1933年 9月7日	日本国際協会の件	3,000円	本日支払い	三井5,000円
	北海道倶楽部の件	2,000円	年賦金2,000円振込報告	
	竹越與三郎氏著書の件	1,000円	援助	
	福岡県国防会の件	10,000円(50,000円内)	三菱鉱業名義寄付金内10,000円本社負担の件追認	
1933年 9月11日	八紘学園の件		援助願出・取調の上追て詮議	三井3,000円
	経済情報社の件		援助断ることに決議	
	瀧之川学園の件	1,600円	援助のことに決議す	
	日本外事協会の件		援助願出・追て詮議	
1933年 9月19日	帝都日々新聞の件		援助見合せのこととす	三井7,500円
	金満州婦人団体連合会の件	5,000円	商事大連支店を通じ援助決議	
	日本赤十字社京都支部病院寄附金の件		援助増額(10,000円支払済)断ることとす	
	国民運動社の件		援助断ることとす	
1933年 9月11日	中外商業新報社の件	2,000円	援助決議	三井3,000円
	京都国防協会の件		援助願出・追て詮議	
	純真学園の件		援助願出・取調の上詮議	
	靖国神社忠魂史の件	7,500円	援助決議	
1933年 9月19日	全日本方面委員連盟の件		寄付金繰上支払願出承諾	三井7,500円
	新民会の件	1,000円	援助願出承諾	
	朝鮮癩予防協会の件		商事京城支店より振込報告	



1933年 9月26日	帝国飛行協会の件	20,000円	本年度分支払報告	三井有賀氏名義 3,000円
	癌研究会の件	10,000円	30,000円の内本年度分支払済報告	
	純真学園の件	3,000円	援助決議	
	京都国防協会の件	500円	三井の振合を見て追て協議	
	夕刊帝国の件		援助のこととす	
	満州上海事変尽忠録続編の件	精々1,000円	三井とも打合せ・援助決議	
	八紘学園の件	7,500円	援助決議	
	桜花倶楽部の件	1,000円	三井とも打合せ・今回限り援助	
	帝国工芸会の件	年2,000円宛5年(10,000円)	援助のことに協議・社長室会に付議	
	大日本傷疾同仁会の件	500円 5,000円 1,500円乃至2,000円 1,000円 100,000円(本年度) 30,000円(本年度下季分) 100,000円	願出見送ることとす 各社打合せ済報告	
1933年10月 4日	各地防空国防献金分系会 社割当金額の件		寄附のことに決議	三井200,000円
	故荒木大尉銅像建設の件		醸出の事に決議	
	南朝鮮風水害義捐金の件		三井とも振合・援助決議	
	満州上海事変尽忠録続編の件		援助のこととす	
	日本農民美術研究所の件		寄付金申出・追て詮議	
	廣瀬神社創建の件		三菱銀行特定口座へ払込済 支払い済報告	
	日本学術振興会の件		寄附の事に社長室会にて 決定報告	
	三菱経済研究所の件		援助申出追て詮議	
	海軍参考館の件		援助決議	
	文部省思想対策非常時国 民訓練運動の件		援助申出追て詮議	
1933年10月10日	国民新聞社の件	1,000円	寄附決議・社長室会にて付議	三井10,000円
	帝国教育会の件	10,000円 500円	援助	
	高野山根本大塔建築の件		援助願出・追て詮議	
	中外産業調査会の件	20,000円乃至 30,000万円	援助願出・追て詮議	
	日本労務者教育協会の件		援助承諾	
	長崎市国際産業観光博覧 会の件	1,000円	援助申出・追て詮議	
	京都国防協会の件		援助承諾	
	経済智識社の件	都市美協会主催第二回道路 祭の件	援助承諾	
	東京帝国大学農学部実科 独立資金援助の件		援助承諾	
	芝区愛宕町青松寺境内肉弾 三勇士銅像建設資金の件	今夏和蘭海牙に開催の万国 基督教学生連盟大会に 立教大学教授菅岡吉博士 派遣費用援助方の件	援助承諾	
1933年10月10日	航空燈台献納会寄附金の件		援助承諾	

	吉備辞書集成刊行会援助の件 総持寺社会事業部産院新 設資金援助の件 本年六月末日迄支出の寄 附金増額前年度との比較 並に内訳其他に付永原委 員より報告あり 京都国防協会の件	30,000円	30,000円の範囲にて寄附 のことに社長室会承認の ところ結局30,000円寄附 のことに協議	
1933年10月18日	帝国教育会創立五十周年 記念協賛会の件 帝国学士院の件 明治神宮祭奉祝会の件 第二回道路祭の件 やまと新聞社の件 軍用動物慰霊祭の件 東京統計協会の件	1,000円 1,000円 1000円 300円乃至500円 1,000円 1,000円	援助決議・三井と打合せ の上 昭和8年度分支払報告 援助(昨年同様) 援助決議 援助(例年通り) 援助当分見送り追て協議 寄附決議・三井とも打合 せの上	
1933年10月26日	日本外交協会の件 日米文化学会の件 昼夜通信社の件 廣瀬神社創建奉賛会の件 皇室皇族聖鑑寄贈会の件 日本国家社会党陶上篤太 郎氏の件	500円 5,000円(3年間丈) 500円 500円 500円 500円	援助決議 寄附の事・社長より申聞報告 援助 寄附申出・追て詮議 援助の事に決議 援助	三井1,000円 三井1,500円 三井500円
1933年11月1日	大本山総持寺社会事業部の件 大亜細亜協会の件 新民会の件 皇民会の件 朝鮮新聞社の件	1,000円(宛3年間) 3,000円 1,000円 3,000円 3,000円	援助決議 下期分支払い依頼・承諾 本年下季分として援助決議 援助決議 援助・商事、鉱業の意向 を聞き	三井3,000円 三井合名5,000円・ 物産1,000円
1933年11月7日	大日本職業指導協会の件 早稲田大学創立五十周年 記念事業の件 慶応大学移転改築の件	50,000円以内5 ヶ年賦 100,000円以内 10ヶ年賦 500,000円5ヶ年賦 30,000円3ヶ年賦	援助申出・追て詮議 寄附の件社長室会附議に決議 寄附の件社長室会附議に決議 寄附の件社長室会附議に決議 援助決議但社長室会に付議	三井50,000円5ヶ 年賦 三井100,000円10 ヶ年賦
1933年11月14日	愛国恤兵会の件 文部省思想対策非常時国 民訓練運動の件 農民講道館の件 日本思想社遠藤友四郎氏の件 アラビヤ語雑誌ヤボン・ モフビリ発行援助の件 建武中興六百年記念会の件 日本電報通信社の件 大東文化学院の件 帝都日々新聞社の件 ジャパン・タイムス社の件	10,000円 10,000円迄の範囲 5,000円 2,000円	援助決議但社長室会に付議 三井10,000円 扱者取計に一任 三井とも打合せ・追て詮議 寄附決議 援助願出・追て詮議 援助願出・追て詮議 援助決議 援助申出・追て詮議	

1933年11月22日	アラビヤ語雑誌ヤボン・モフビリの件	1,000円	援助	三井2,400円
	デリー・テレグラフの件	雑誌広告1頁分	承諾商事にて取扱・各社分担額追て詮議	
	日本青年協会の件		昭和8年度分支払方申越報告	
	篤農協会の件		昭和8年度分振込方申出報告	
	財政経済時報社の件	500円	援助決議	三井500円
	青山学院創立五十周年記念の件	5,000円	寄附決議	三井20,000円
	国民協会赤松克麿氏の件	1,000円	援助	
	斎藤貢氏援助の件	500円	援助	
	大日本国粋会関東本部の件	3,000円	援助決議(昨年通り)	
	癩予防協会の件		100,000円寄附願出・社長室会に付議	
1933年11月28日	全国町村会館建設の件		300,000円援助申出・追て詮議	
	癩予防協会の件	100,000円5ヶ年賦	更に寄附の事社長室会にて決定	
	真言宗総本山東寺の件	3,000円	援助決議	三井6,000円
	露西亜通信社の件	500円	援助	三井500円
	事業之日本の件	1,000円	援助	三井3,000乃至4,000円・安田2,000乃至2,500円
	ジャパン・タイムス社の件		株式金10,000円引受申出・社長室会に付議	三井10,000円引受
	札幌グランドホテルの件		株式引受願出・社長室会に付議	大日本ビール1,000株・三井700株・王子製紙700株・北海道炭鉱300株・安田500株・住友300株
	廣瀬神社創建奉賛会の件	2,000円	寄附決議・三井とも打合の上	
	湘南国語研究会の件	1,000円	援助決議	
	大阪防空飛行場の件		寄附銀行大阪支店より申越・三井とも打合追て詮議	
1933年 12月5日	日本電報通信社の件	10,000円乃至20,000円	三井の意向確めの上取極め	
	中央教化団体連合会の件		援助申出・追て詮議	
	逓信病院建設の件		建設費概算5,000,000円・追て詮議	
	宇宙社の件		4,000円援助申出・追て詮議	
	生活改善中央会の件		特に援助申出・断ることとす	
	中央融和事業協会の件		昭和8年度分8,000円払込方申出報告	
	社会教育協会の件		昭和8年度分1000円支払済報告	
	全国大学教授連盟の件	1,000円	援助	三井1,000円
	軍用動物慰霊祭の件	3,000円迄の範囲	三井共打合せ・援助の事とし追て詮議	
	日独文化協会の件		三井とも打合の上追て詮議	
	厳島神社の件	5,000円	援助の事に決議	

1933年12月12日	神田高等女学校の件		援助願出・追て詮議	
	愛恵学園の件	1,000円程度	援助の事にす	三井1,000円
	宇宙社の件	1,000円	今回限りにて援助決議	
	東京大勢新聞社の件	1,500円	援助	
	日本工学会編纂明治工業史の件		援助断ることとす	
	日本政治科学研究所の件	1,000円	援助決議	
	日仏仏教協会の件		援助申出・追て詮議	
	大東文化学院の件	5,000円	援助	
	別口寄附金払込の件		諸払込報告	
	慶応義塾の件		10,000円支払い済報告	
1933年12月19日	早稲田大学の件		年賦金10,000円支払い済報告	
	日本国際協会の件		3,000円支払い済報告	
	外交時報社の件	700円	援助の事決議	
	万朝報社の件	1,000円乃至2,000円	援助決議	三井1,000円歳末2,000円
	帝国新報社の件	1,000円	援助	三井500円, 1,500円, 歳末2,000円
	黒龍会の件	1,000円	援助決議	
	弘報大師千百年御忌記念会の件		10,000円 援助申出・追て詮議	
	徳富蘇峰著国民小訓の件	1,000部(1部70銭)	買取り決議	三井2,000部, 安田1,000部
	民友通信社の件	500円	援助	
	日蒙貿易協会石塚忠氏の件	1,000円	援助決議	三井1,000円
1933年12月26日	大阪防空飛行場の件	20,000円	寄附決議	三井20,000円
	福島県立薫陶園の件		援助断ることに決議	
	鏡泊学園の件		援助願出・追て詮議	住友50,000円
	別口寄附金払込の件			
	福岡県国防会の件		3,000円鉱業本店より勘定報告	
	医学博士是立文太郎氏研究出版援助金の件	5,000円	銀行京都本店を通じ支払い済報告	
	逓信病院の件	100,000円	寄附決定(社長室会)報告	
	大阪防空飛行場の件	20,000円	寄附申込・銀行大阪支店へ申込報告・三井銀行支店とも打合せの上	
	月旦社の件	300円乃至500円	援助決議	三井500円
	上海日報社の件	2,000円	援助決議	三井2,000円
1933年12月26日	夕刊帝国社の件	500円	援助	三井500円
	政教社の件	1,000円	援助決議	
	明治天皇聖跡保存会の件		援助願出・追て詮議	
	第二回汎太平洋仏教青年会の件		援助願出・追て詮議	
	官幣中社大原野神社の件	500円乃至1,000円	援助	
	別口寄附金払込の件		支払い済報告	
	化学工業協会の件		500円支払い済報告	
	朝野通信の件	500円	援助のこととす	
	養田胸喜氏援助の件	500円	援助の事に決議す	

(出典) 『寄附委員会議事録』第1号(MA - 8038)。

(注) 空欄は、不明であることを示す。

### 第3章 戦時期における三菱による寄附 『決算勘定書』・『決算書類』の検討を中心にして

本章では、三菱史料館所蔵史料である『決算勘定書』や『決算書類』(MA2212～2232)を中心に用いて、いわゆる「財閥の転向」による寄附金の増加、とされている時期以降、すなわち戦時期を中心に、1935年から1945年の時期において、三菱ではどのようなところにどれくらいの額の寄附を行っていたのかについて、具体的な分析を行うことにしたい。

表10は、1935年から1945年にかけての『決算勘定書』、『決算書類』のなかに記載されている「寄附金明細」にもとづき、寄附を行った出資先とその金額について、年度または各期ごとに記したものである。ここでは、まず同表について詳しく分析することしよう。

まず、出資先について注目してみよう。まず1935年のそれについてみると、団体および地域に対する寄附金、援助金のほかに、学校に対する寄附金の多さに気づくであろう。三菱(岩崎家)との強い関係があった成蹊学園に対する資金以外にも、多くの学校法人に対する寄附金および援助金の支援を行っていたのである。また、満州・朝鮮に対する寄附も、戦時体制期に特徴的なものであるといえよう。

また、金額および件数について注目すると、5000円未満の寄附金は、1935年から38年のあいだには1500件程度あり、こうした規模における寄附件数の多さをみてとることができる。しかし、こうした寄附について、大口・小口ともに1939年から逡減していくが、この要因については、臨時租税措置法、会社統制令といった、戦時期において公布された統制法による規制が大きく関わっていたものと考えられる。すなわち、企業(三菱)側が自ら寄附を行うという意思決定を減らしていったというよりもむしろ、国策に大きく影響を受けた流れであったと考えられる。また、戦時体制期においては、寄附の内訳についても、大口のものについては国家体制にかかわる出資先に限定されるようになり、戦時体制の進行にともなった動きを、三菱においては寄附という行動においても行っていたと

表 10 寄附金明細表(1935～1945 年)

(1935 年)		単位：円 金額
年賦払一般寄附金		
善隣協会	寄附金	200,000.00
東郷元帥記念会	寄附金	200,000.00
朝鮮総督府	朝鮮施設 25 年記念博物館建設費寄附金	150,000.00
癩予防協会	寄附金	100,000.00
サンパウロ日本病院建設後援会	寄附金	50,000.00
ジャパントイムス社	事業更生資金寄附金	28,000.00
東北生活更新会	事業助成寄附金	20,000.00
奉仕会	基本金寄附金	20,000.00
霞山会館	援助金	10,000.00
高知市東洋語学校	寄附金	4,800.00
二松学舎	援助金	3,000.00
全国産業団体連合会	寄附金	10,000.00
	12 口	795,800.00
支払期末定一時払寄附金		
大阪国粋義勇飛行隊後援会	寄附金	11,500.00
大阪癌治療研究会	寄附金	10,000.00
神奈川県	御大典記念事業武道場建設寄附金	5,500.00
大本山黒谷金戒光明寺	再建寄附金	5,000.00
始政四拾周年記念台湾博覧会	寄附金	5,000.00
福岡市	福岡陸上飛行場建設寄附金	5,000.00
日独協会	寄附金	2,500.00
名古屋司法保護事業研究会	寄附金	2,000.00
朝鮮施政 25 周年記念朝鮮産業博覧会	援助金	2,000.00
日本工業協会	寄附金	2,000.00
帝都復活学園	事業援助金	1,000.00
ワット誕生式百年記念会	寄附金	250.00
合計	12 口	51,750.00
即時払一般寄附金明細表		
満州拓殖株式会社	満州国に於ける拓殖事業に対する援助出捐	1,110,000.00
聖路加国際メディカルセンター	基金寄附金	50,000.00
台湾震災善後対策委員会	台湾大震災義捐金	30,000.00
災害科学研究所設立後援会	寄附金	30,000.00
社団法人日満中央協会	基金寄附金	30,000.00
春畝公追頌会	寄附金	20,000.00
中央大学	中央大学創立 50 周年記念事業寄附金	20,000.00
法政大学拡張建築期成会	拡張建築費寄附金	20,000.00
東星学園	東星学園クリュツベルハイム建築資金寄附金	10,000.00
東京控訴院管内司法保健事業研究会	寄附金	10,000.00
日本外交協会	寄附金	10,000.00
高知県	高知県風水害義捐金	10,000.00
北里博士記念医学図書館建設会	図書館建設資金寄附金	10,000.00
大日本映画協会	寄附金	10,000.00
経済智識社	援助金	6,000.00
紫雲荘	橋本徹馬援助金	6,000.00
実業之世界社	援助金	6,000.00
大亜細亜協会	昭和 10 年度補助金	6,000.00

財団法人斯文会	儒道大会寄附金	5,000.00
高麗神社奉賛会	寄附金	5,000.00
日本経済連盟会	昭和 10 年度特別支出金	5,000.00
財団法人学徒至誠会	寄附金	5,000.00
東北学院	寄附金	5,000.00
東洋工業会議事務総長井上匡四郎	東洋工業会議寄附金	5,000.00
財団法人佛限協会	建築資金寄附金	5,000.00
財団法人養育会	大井病院建築資金寄附金	5,000.00
立教大学父兄会	校舎改築資金寄附金	5,000.00
麻布六本木警察署改築後援会	麻布六本木警察署改築資金寄附金	5,000.00
東洋経済新報社	40 周年賛助金	5,000.00
東京商工会議所	群馬、茨城両県下水害義捐金	5,000.00
小計	30 口	1,454,000.00
其他	¥ 5000 未満の分 1484 口	250,171.10
合計	1514 口	1,704,171.10

(1936 年)

年賦払一般寄附金		
満州国留日学生会館	会館建設資金寄附金	100,000.00
協調会	産業福利部維持費寄附金	60,000.00
成城学校	留学生部後援会寄附金	10,000.00
全国産業団体連合会	寄附金	10,000.00
	4 口	180,000.00
支払期未定の一時払寄附金		
南国土佐大博覧会協賛会	寄附金	30,000.00
朝鮮社会事業協会	南朝鮮水害義捐金	20,000.00
神戸市	公開堂建設費寄附金	10,000.00
橘神社創建奉賛会	寄附金	5,000.00
宇品凱旋館建設会	寄附金	5,000.00
札幌神社	社殿改修並境内整理事業費寄附金	3,000.00
電気化学協会	事業資金寄附金	2,500.00
大阪府警察病院建設助成金募集事務所	寄附金	2,500.00
四條綴神社記念事業奉賛会	寄附金	2,000.00
大日本武徳会南洋群島支部	武徳殿建設費寄附金	1,000.00
京都靈山官祭招魂社造営奉賛会	寄附金	1,000.00
西郷都督樺山総督記念事業実行委員	寄附金	500.00
神奈川県水産会	東京湾水産試験場設置寄附金	300.00
	13 口	82,800.00
即時払一般寄附金		
満州拓殖株式会社	満州国における拓殖事業に対する援助出捐	370,000.00
愛育会	愛育研究所敷地代寄附金	61,161.00
第 11 回オリンピック後援会	選手派遣費寄附金	50,000.00
故斎藤子爵記念事業会	寄附金	30,000.00
宇佐神宮復興奉賛会	献金	20,000.00
満州鏡泊学園	整理費寄附金	20,000.00
商工省臨時産業合局	義肢研究所設立資金寄附金	20,000.00
内務省	傷兵院慰安設備費追加寄附金	16,400.00
ジャパントイムス社	援助金	15,000.00
日本少年保護協会	事業資金	12,000.00
京都市公開堂復興事業協賛会	復興建築費	10,000.00
日本外交協会	寄附金	10,000.00

日本国際協会	第6回太平洋問題調査会大会参加費用援助	10,000.00
東京日々新聞発行所	65周年記念事業援助金	10,000.00
善隣協会	内蒙古雪害救済義捐金	10,000.00
農民講道館	実験試験場寄附金	10,000.00
修養団援援会	援助金	10,000.00
東京商工会議所	在満将士慰問資金	7,000.00
忠勇顕彰会	寄附金	5,000.00
満州移民協会	寄附金	5,000.00
警視庁	帝都騒擾事件殉職警官弔慰金	5,000.00
海軍協会	寄附金	5,000.00
壮年団中央協会	事業資金	5,000.00
日本経済連盟会	特別寄附金	5,000.00
学徒至誠会	寄附金	5,000.00
報知新聞社	南方問題調査会寄附金	5,000.00
外務省内伯国経済使節歓迎委員会	伯国経済使節待遇費寄附金	5,000.00
中央満蒙協会	満州国留日警察官館建設資金寄附金	5,000.00
暁星学校	講堂改築費寄附金	5,000.00
浅草寺	浅草寺病院移転改築費資金寄附金	5,000.00
小計	30口	751,561.00
その他	¥5000未満の分 1504口	234,009.50
合計	1534口	985,570.50

## (1938年)

年賦払寄付金		
肢体不自由者療護園建設委員会	建設資金寄附金	100,000.00
日本万国博覧会協会	寄附金	50,000.00
国際見本市会館建設委員	建設費寄附金	20,000.00
東京工業大学創立六十年記念会	記念事業資金寄附金	15,000.00
全国産業団体連合会	寄附金(特に期限を定めず当分定額の支払を予約せる寄附金)	10,000.00
	5口	195,000.00
即時払一般寄附金		
東亜研究所	寄附金	100,000.00
満州移住協会	寄附金	100,000.00
厚生省	私設社会事業団体助成金	100,000.00
三菱経済研究所	維持費寄附金	60,000.00
故高橋是清翁記念事業会	記念事業資金寄附金	50,000.00
帝国在郷軍人会麻布支部	援助金	30,000.00
大日本聯合青年団	助成金	30,000.00
神戸市長	兵庫県水害義捐金	25,000.00
茨城県知事	茨城県水害罹災救護費	20,000.00
組育桑港万国博覧会協会	賛同協賛寄附金	20,000.00
近江神宮奉賛会	寄附金	20,000.00
日本経済連盟会	援助金	15,000.00
講道館	事業資金寄附金	10,000.00
日本庭球協会	デビスカップ試合選手派遣資金並協会基金寄附金	10,000.00
ジャパンタイムス社	援助金	10,000.00
太平洋問題調査会	寄附金	10,000.00
東京盲人会館	建設費寄附金	10,000.00
日本外交協会	寄附金	10,000.00
東北更新会	寄附金	10,000.00



東京商工会議所	静岡・神奈川及東京地方水害義捐金	10,000.00
日独青少年国交協会	寄附金	10,000.00
東郷寺建設会	東郷寺建設費寄附金	10,000.00
昭徳会東京支部	支部運営資金寄附金	10,000.00
修養団後援会	寄附金	10,000.00
金鶏学院	寄附金	10,000.00
孝明天皇奉祀奉賛会	寄附金	10,000.00
全日本方面委員会連盟	援助金	6,000.00
東京府救護委員会	冬期生活窮迫者救済資金寄附金	5,000.00
人口問題研究会	寄附金	5,000.00
学徒至誠会	援助金	5,000.00
クリツベルハイム東星学園	学園建設費寄附金	5,000.00
海軍協会	寄附金	5,000.00
野口英世博士記念会	寄附金	5,000.00
日満支経済懇談会	寄附金	5,000.00
昭和研究所	援助金	5,000.00
小計	35 口	756,000.00
その他	¥5000 未満の分 1,520 口	270,968.10
合計	1,555 口	1,026,968.10
年賦払 + 即時払	1,560 口	1,221,968.10

(1939 年 1 月 1 日 ~ 6 月 30 日)

年賦払寄付金		
軍人援護会	本部事業資金寄附金	1,000,000.00
紀元二千六百年奉祝会	記念事業資金寄附金	100,000.00
三菱経済研究所	維持費寄附金(当分毎年定額の支払を予約分)	60,000.00
浄風会	補給費寄附金	15,000.00
全国産業団体連合会	寄附金(当分毎年定額の支払を予約分)	10,000.00
ジャパンニュースウィーク	援助金	2,500.00
年賦払計	6 口	1,187,500.00
即時払寄附金		
海軍下士官兵家族病院並海軍協会後援会	寄附金	70,000.00
陽明文庫	文庫建設基金寄附金	50,000.00
大日本防空協会	寄附金	50,000.00
東亜同文書院	図書館復興寄附金	30,000.00
ジャパントイムス社	援助金	10,000.00
日本外交協会	寄附金	10,000.00
無窮会	援助金	10,000.00
全日本方面委員会連盟	援助金	6,000.00
麹町区兵事義会	同義会並東京出勤将士後援会事業資金寄附金	6,000.00
東京府救護委員会	冬期生活窮迫者救済資金寄附金	5,000.00
聖心愛子会本部	建設資金寄附金	5,000.00
訪日北支経済視察団招聘事務局	北支経済視察団招聘に関する賛助金	5,000.00
大日本映画協会	寄附金	5,000.00
学徒至誠会	寄附金	5,000.00
興農学園	久連国民高等学校貯蔵庫其他建設資金寄附金	5,000.00
その他	¥5,000 未満の分 737 口	131,559.90
即時払計	752 口	403,559.90
合計		1,591,059.00

(1939年7月1日～12月31日)

年賦払寄付金		
興亜工学院	創設資金援助金 ¥ 60,000 の内当社負担額(残額分系会社負担)	6,000.00
一時払寄付金		
癌研究所	研究事業費 ¥ 120,000 の内当社負担額(残額分系会社負担)	60,000.00
満州移住協会	賛助基金 ¥ 100,000 の内当社負担額( " )	50,000.00
大日本防空協会	寄付金 ¥ 100,000 の内当社負担額( " )	50,000.00
厚生省社会局	私設社会事業助成金 ¥ 100,000 の内当社負担額( " )	45,000.00
愛育会	愛育研究所敷地買収費援助金 ¥ 60,000 の内当社負担額( " )	30,000.00
乳香園	設立基金 ¥ 50,000 の内当社負担額( " )	20,000.00
皇戦会	援助金 ¥ 60,000 の内当社負担額( " )	20,000.00
大阪高等工業学校	創設資金援助金 ¥ 100,000 の内当社負担額( " )	20,000.00
雲柱社	基本金	15,000.00
東京日々新聞発行所	ニツボン号世界一周飛行援助金 ¥ 20,000 の内当社負担額( " )	10,000.00
香取神宮奉賛会	義抛金	10,000.00
篤農協会	事業費	10,000.00
東亜同文会	援助金	7,000.00
読売新聞社	軍人遺家族厚生資金 ¥ 20,000 の内当社負担額( " )	5,000.00
戦時物資活用協会	援助金 ¥ 30,000 の内当社負担額( " )	5,000.00
善隣協会	事業援助金 ¥ 10,000 の内当社負担額	5,000.00
故川面凡児先生十周年記念会	記念事業賛助金	5,000.00
其の他	¥ 5,000 未満の分 710 口	161,118.20
一時払計	727 口	528,118.20
合計		534,118.20

(1940年1月1日～6月30日)

年賦払寄附金		
結核予防会	寄附金	150,000.00
無窮会、東洋文化研究所	寄附金	7,200.00
	2 口	157,200.00
一時払寄附金		
修養会	皇民道場建設費	40,000.00
三菱経済研究所	援助金	30,000.00
土佐在郷将校会	在郷将校会館建設費寄附金	30,000.00
九州帝国大学	理学部設置資金	20,000.00
神戸商業大学	予科設置資金	10,000.00
日本学術振興会	援助金	10,000.00
東亜研究所	寄附金	10,000.00
北京大使館	小学校、中学校臨時施設費	10,000.00
東京日々新聞社	軍事郵便機献納資金	14,000.00
都新聞社	忠霊碑桜樹献納資金	6,000.00
報知新聞社	映寫機献納資金	6,000.00
静岡市	大火災罹災者救護義捐金	6,000.00
	12 口	192,000.00
其の他	¥ 5,000 未満の分 666 口	113,259.40
計	678 口	305,259.40
合計	680 口	462,459.40

(1940年7月1日～12月31日)

紀元二千六百年記念宮外苑整備事業 奉賀会	寄附金	25,000.00
国際飛行場並防空飛行場建設資金募 集委員会	寄附金	20,000.00
厚生省社会局	私設社会事業団体助成金	20,000.00
戦時生活相談所	援助金	9,482.00
日本貿易振興協会	寄附金	8,000.00
東京商工会議所	東京区裁判所日本橋登記所建設資金	5,100.00
計	6 口	87,582.00
其の他	¥5,000 未満の分 661 口	80,103.50
合計	667 口	167,685.50

(1941年1月1日～6月30日)

満州移住協会	援助金	19,000.00
紀元二千六百年奉祝会	寄附金	18,000.00
大日本忠霊顕彰会	寄附金	18,000.00
東方社	創立事業資金	13,500.00
皇典講究会	援助金	5,100.00
報知新聞社	援助金	5,100.00
社会教育協会	寄附金	5,100.00
計	7 口	83,800.00
其の他	¥5,000 未満の分 499 口	63,989.00
合計	506 口	147,789.00
他に 未払寄附金勘定より戻入高		-47,200.00
差引残高		100,589.00

(1941年7月1日～12月31日)

陸海軍省	国防費並恤兵金	340,000.00
三菱経済研究所	職員退職慰労基金	72,000.00
厚生省寄託私設社会事業団体	援助金	18,000.00
東京商科大学奨学財団期成会	寄附金	18,000.00
東亜研究所	寄附金	9,000.00
日本貿易振興会	事業資金	8,000.00
戦時生活相談所	寄附金	7,758.00
高輪警防後援会	設備資財整備資金	5,400.00
名古屋商工会議所	名古屋帝大付属図書館並記念講堂建設寄附金	5,000.00
名古屋帝国大学理工学部	研究費寄附金	5,000.00
日泰学院	創設助成費	5,000.00
小計	11 口	493,158.00
其の他	¥5,000 未満の分 444 口	62,017.88
合計	455 口	555,175.88

(1942年1月1日～6月30日)

大日本忠霊顕彰会	援助金	40,000.00
丸の内消防署後援会	援助金	30,000.00
東方社	事業資金	13,500.00
日本拓殖協会	援助金	10,000.00
郷男爵記念会	援助金	10,000.00
日本世界文化復興会	事業資金	10,000.00
日本赤十字社東京支部	援助金	10,000.00

朝鮮移住協会	援助金	5,000.00
東亜留日学生会館	建設資金	5,000.00
長崎県護国神社奉賛会	造営寄進会	5,000.00
	小計 10 口	138,500.00
其の他	¥5,000 未満の分 365 口	55,281.00
合計	375 口	193,781.00

(1942 年 7 月 1 日～12 月 31 日)

大日本飛行協会	事業資金	56,000.00
東亜農業研究所	事業資金	36,000.00
東京商工会議所	山口県其他災害義捐金	34,000.00
厚生省	私設社会事業団体寄附金	25,500.00
東京商科大学奨学財団期成会	事業資金	17,000.00
善隣協会	事業資金	12,000.00
日本世界文化復興会	事業資金	8,500.00
海外同胞中央会	事業資金	8,500.00
日本貿易振興会	事業資金	8,000.00
帝国在郷軍人会財団	援助金	7,200.00
和気神社奉賛会	事業資金	5,400.00
大洋文化協会	援助金	5,100.00
	小計 12 口	223,200.00
其の他	¥5,000 未満の分 387 口	70,726.00
合計	399 口	293,926.00

(1943 年 1 月 1 日～3 月 31 日)

成蹊学園	学園資金	85,000.00
タイ国水害義捐金	義捐金	18,000.00
東亜研究所	事業資金	8,500.00
戦時生活相談所	事業資金	5,100.00
	小計 4 口	116,600.00
其の他	¥5,000 未満の分 162 口	21,024.00
合計	166 口	137,624.00

(1943 年 4 月 1 日～9 月 31 日)

大日本忠霊顕彰会	援助金	34,000.00
東亜農業研究所	事業資金	30,000.00
九州帝国大学総合工学研究所	創設資金	20,000.00
大日本国防衛生協会	事業資金	8,500.00
東亜同文会	事業資金	8,500.00
日本拓殖協会	援助金	8,500.00
中日文化協会	援助金	8,500.00
甲南学園	事業資金	7,500.00
日本産業協会	事業資金	6,375.00
帝国在郷軍人会財団	援助金	6,000.00
鳥居坂警察署	廠社改築資金	5,100.00
世界経済調査会	事業資金	5,100.00
	小計 12 口	148,075.00
其の他	¥5,000 未満の分 320 口	63,565.74
合計	332 口	211,640.74

註

臨時租税措置法による寄附金支出限度予想額 336,910.00

(1943年10月1日～1944年3月31日)

大日本飛行協会	事業資金	総額 5,150,033(5年賦)第2年賦	56,000.00
軍人援護会	会費		28,503.00
東京都商工経済会	義捐金		22,500.00
全国私設社会事業団体	助成金		22,500.00
東京商科大学奨学財団期成会	事業資金		15,000.00
日本体育会	事業資金	一時払	15,000.00
大日本回教協会	建設資金	一時払	15,000.00
国際学友会	事業資金	一時払	11,250.00
敵国在留同胞対策委員会	救恤金	総額 200,000(3年賦)第1年賦	10,000.00
日本貿易振興協会	事業資金	総額 150,000(3年賦)第4年賦	8,000.00
年金保険厚生団	設立基金	一時払	7,560.00
日本世界文化復興会	事業資金	総額 150,000(3年賦)第3年賦	7,500.00
日本栄養協会	援助金	一時払	7,500.00
ビルマ協会	法人組織基本金	総額 150,000(3年賦)第1年賦	7,500.00
比律賓協会	事業資金	総額 200,000(3年賦)第1年賦	7,500.00
東亜研究所	事業資金	一時払	7,500.00
	小計	16口	248,813.00
その他	¥5,000未満の分	295口	44,264.00
	合計	331口	293,077.00

註

臨時租税措置法による捐金認容限度額 346,376.00

(1944年4月1日～1944年9月30日)

成蹊学園	学園資金	総額 1,500,000(3年賦)第2回分	75,000.00
軍人援護会	会費		28,264.00
東亜農業研究所	事業資金	総額 1,000,000(5年賦)の内第3回分	28,000.00
日本赤十字社東京支部	事業資金	一時払	7,500.00
帝国在郷軍人財団	援助金	総額 200,000(5年賦)第3回分	5,600.00
世界経済調査会	事業資金	一時払	4,500.00
東郷会	特別維持会費	一時払	4,500.00
	小計	7口	153,364.00
其他	¥4,000未満の分	243口	43,990.00
	合計	250口	197,354.00
結核予防会	未払寄附金勘定より振戻		-4,200.00
			193,154.00

註

会社経理統制令による寄附金支出限度額 301,299.00

(1944年10月1日～1945年3月31日)

大日本飛行協会	事業資金	総額 515,033(3年賦)第3年賦	32,213.00
軍人援護後援会	会費		28,064.00
全国優良私設社会事業団体	厚生省寄託助成金		21,000.00
日本貿易振興協会	事業資金	総額 500,000(5年賦)第5年賦	8,000.00
東亜研究所	事業資金	一時払	7,000.00
翼賛政治会	援助金		7,000.00
修養団	神都道場建設費	総額 100,000(2年賦)第1年賦	7,000.00
	小計	7口	110,277.00
其他	¥5,000未満の分	206口	38,165.00
	合計	213口	148,442.00

註

2. 会社経理統制令による寄附金支出限度額 292,148.00

(1945年4月1日～9月30日)

戦災援護後援会	援助金 総額 5,000,000(一時払)	650,000.00
成蹊学園	学園資金 総額 1,500,000(3年賦)の内最終回分	65,000.00
軍人援護後援会	会費	28,143.00
東京都学童疎開援護会	会費 総額 200,000(一時払)	26,000.00
東亜農業研究所	事業資金 総額 1,000,000(5年賦)第4回分	26,000.00
敵国在留同胞対策委員会	援助金 総額 200,000(3年賦)第2回分	8,670.00
ビルマ協会	援助金 総額 150,000(3年賦)第2回分	6,500.00
比律賓協会	事業資金 総額 200,000(4年賦)第2回分	6,500.00
大日本政治会	援助金 総額 50,000(一時払)	6,500.00
	小計 9口	823,313.00
其他	1口 5,000円未満の分 79口	19,665.00
	合計 88口	842,978.00

(1945年10月1日～1946年3月31日)

金鶏学院	昭和20年度事業助成援助金 一時払	1,300.00
日本外交協会	昭和20年度事業資金援助金 "	650.00
国防交通協会	事業資金援助金 "	130.00
やまと新聞社	援助金 "	130.00
日本農民組合	" "	130.00
朝日新聞社	亜細亜の光第三輯発行援助金 "	260.00
聖心愛子会	昭和20年度経常費 "	130.00
皇武会	昭和20年度事業資金 "	130.00
新経済社	" "	130.00
帝国学士院	学術奨励金 ¥10,000 の内第5回分 年賦払	130.00
日本電報通信社	事業資金 一時払	130.00
興望館	援助金 "	130.00
丸ビル週報社	" "	195.00
交通事業助成協会	賛助金 "	130.00
大日本剣道会	事業資金 "	260.00
	計 15口	3,965.00
其他	34口	884.00
	合計	4,849.00

(出典) 三菱合資会社『決算勘定書』1935年度・1936年度(MA-2212, 2213),  
三菱社『決算書類』1937年、1938年(MA-2214, 2215),  
三菱社・三菱本社『決算書類』各期(MA-2216～2232)。

ということが理解できる。

このような点から、戦時体制の進行にともない、たしかに寄附件数および金額は逡減したが、それは企業(三菱)側における自主的な減少への動きというよりはむしろ、それには戦時統制下における規制が大きくかかわっていたのであり、財閥「内から」の寄附金額削減への動きというよりはむしろ、戦時体制の進展という「外からの」削減にむけた動きの帰結であったといえることができるのである。また、本社のみが寄附金の出資を行うのではなく、分系各社において寄附金を分担するようになったことも、本社自体における寄附金額の減少にむすびついてい

たということができる。

ちなみに、表 11 は 1940 年 6 月において提示された、寄附金額における本社および分系各社の分担割合について記したものである。

表 11 寄附金分担比率調

1940/6/25

社 名	公称資本金按分 (40/6 月)		利益金按分 (40/上期・下期)		振込資本金、決定繰越金、 別途積立金合計額按分 (40/6 月)		以上 平均率	同修正 率
	金額(単位：円)	%	金額(単位：円)	%	金額(単位：円)	%		
三 菱 社	120,000,000.00	14.91	14,185,754.35	15.72	191,302,969.21	21.85	18	20
鋳 業	200,000,000.00	24.84	24,225,988.80	26.84	185,143,527.74	21.15	24	23
重工業	240,000,000.00	29.82	19,311,065.33	21.4	211,925,333.12	24.21	25	22
銀 行	100,000,000.00	12.42	10,590,878.59	11.73	133,535,040.78	15.26	13	12
商 事	50,000,000.00	6.21	9,899,152.93	10.97	64,515,268.27	7.37	8	12
電 機	30,000,000.00	3.73	7,573,811.84	8.39	41,715,713.61	4.77	6	6
信 託	30,000,000.00	3.73	2,119,201.49	2.35	16,363,032.85	1.87	3	2
倉 庫	20,000,000.00	2.48	1,508,740.91	1.67	19,007,941.72	2.17	2	2
地 所	15,000,000.00	1.86	836,313.16	0.93	11,829,880.29	1.35	1	1
	805,000,000.00	100	90,250,907.40	100	875,338,707.59	100	100	100

「修正平均率ニヨリ割当タリ」

(出典) 『寄附金分担率表』(M A - 6247)

同表の検討からは、分系会社のなかでもとくに三菱鋳業・三菱重工・三菱商事・三菱銀行の各社において寄附金の分担率が大きかったという点が理解できる。この点については、前章において分析を行った、寄附委員会に関する検討の場面において、同時期(1940年6月)以降において上記4社の役員が寄附委員会へ参加をするようになったという点とも結びつけて理解することができよう。なお、ここにおいて決定された分担率については、あくまで参考として取り決められていたようであり、実際の運用にあたっては、適宜修正が行われていた。たとえば、前章において既に検討をおこなった『寄附委員会議事録』のなかにおける1943年12月17日における議事においては、各社分担率について次のような取り決めがなされている。

(史料)

財団法人科学動員協会ノ件

工業系統八社ニ於テ負担ノ事ニ決ス

重工業 222,500 円 (44.5%), 電機 89,000 円 (17.8%), 鉱業 116,500 円 (23.3%), 製鋼 11,000 円 (2.2%), 旭硝子 11,000 円 (2.2%), 日本化成 28,000 円 (5.6%), 日本アルミニウム 16,500 円 (3.3%), 三菱工作機械 5,500 円 (1.1%) : 8 社計 50,000 円

財団法人年金保険厚生園設立費

一般分担率ト 10 月初旬現在ノ工員並ニ職員数トヲ加味シ左記ノ通り分担ノコトニ決定ス

本社 7,560 円 (7.6%)・鉱業 18,310 円 (18.3%)・重工 45,660 円 (45.7%)・銀行 6,470 円 (6.5%)・商事 4,610 円 (4.6%)・電機 7,410 円 (7.4%)・信託 570 円 (0.6%)・倉庫 700 円 (0.7%)・地所 580 円 (0.6%)・製鋼 4,140 円 (4.1%)・石油 640 円 (0.6%)・日本化成 3,350 円 (3.4%) : 合計 100,000 円。

このように、実際の運用にあたっては修正が行われており、とくに戦時体制の進展にともなう三菱重工の負担する寄附金の割合の増加に関しては、この時期における同社の急速な企業規模拡大も関連しているものと考えられるが、ともかくも、戦時期においては、こうした分担率表も参考にしつつ、各社における寄附金の分担率が決定されており、本社のみならず分系各社においても、寄附金の負担の分担が行われていたのであった。

なお、前章では 1932 年から 1933 年にかけての内容について載せたが、ここでは参考に、章末に表 12 において 1942 年 4 月から 1943 年 6 月にかけての寄附委員会における審議内容とその結果について記した。同表をみると、表 10 よりも詳細に、より少額の出資先についてまでみことができるが、分系各社からの寄附に関する伺出も多かったことが分かり、これについては上記の寄附金の分担も関わっているように考えられる。

以上みてきたように、本章では、『決算勘定書』や『決算書類』、あるいは『寄



『附委員会議事録』に基づき、戦時期を中心とする時期においての、三菱による寄附のあり方について明らかにしてきた。1935年から1945年にかけての寄附金明細に関する検討からは、寄附金について、広い交付先をともなっていたという点や、反対に、戦時期における統制法令等との関係から、次第に寄附金額の減少がみられるようになっていったということが分かった。さらに、本社による寄附金額の減少に対しては、分系会社による分担の増加もその一因となっていたということができよう。

表 12 寄附委員会における審議内容と

日程	内容
1942年4月10日	議事 神武天皇聖蹟高嶋宮顕彰会の件 郷男爵記念会の件
1942年4月27日	議事 日本世界文化復興会の件 報告 日本世界文化復興会の件 固本盛国社・1500円(特別援助) 帝国新報社・3000円(1年分繰上援助) 大東亜通信社・1500円(特別援助) 祖国会・3000円(特別援助) 実業之世界社・5000円(特別援助) 全国産業団体連合会・3000円(特別援助) 大阪経済新聞社・5000円(昨年通り事業資金援助) 外交研究会・5000円(事業資金援助) 真哉会・3000円(収容保護場建築費援助) 性病予防協会・4000円(例年通り事業資金援助) 大日本農通協会・3000円(今回限り事業資金援助) 靈山神社奉賛会・1500円(社殿改修費援助)
1942年5月22日	議事 東京市翼賛市政確立協議会 大日本みそぎ会
1942年6月12日	議事 日本赤十字社東京支部 傷痍軍人奉公財団
1942年6月19日	議事 世界経済調査会 太平洋協会 霧島神宮奉賛会の件 東洋婦人教育会
1942年7月17日	議事 九州帝大総工学研究所設立資金 大日本みそぎ会 東京市市政確立協会 東洋語学専門学校
1942年8月7日	議事 東亜農業研究所 大日本飛行協会 東亜同文会
1942年9月11日	議事 善隣協会 神都教学館 修養団後援会 金鶏学院
1942年9月25日	議事 篤農協会 大洋文化協会
1942年10月2日	議事 大日本飛行協会 大日本射撃協会の件
1942年10月23日	議事 山口県下其他災害義捐金 愛知県海洋道場に関する件
1942年11月13日	議事 大日本紳士会 南山会
1942年11月27日	議事 海外同胞中央会 農民講道館 日本経済連盟会



1942年12月11日	議事	厚生省寄託金全国優良私設社会事業団体助成金 中央報徳会 タイ国水害救済義捐金	
1943年1月22日	議事	成漢学園寄付金 山陽神社建設費 翼賛政治会の件	
1943年2月5日		大日本国防衛生協会 戦時生活相談所 東亜研究所	
1943年2月12日	議事	鳥居坂警察署改築の件 愛知県防空学校開設	重工本店より伺出・承諾
	報告	昭南神社造営費 香港忠霊塔建設寄付金 広東在籍軍人寄付金	商事・鉱業本店伺出 商事 商事
1943年3月5日	議事	横浜海洋道場建設費 田中備博士記念事業会 東亜石油工学院創設費	重工本店
1943年3月26日	申合事項	寄附委員会に代理者の出席を認むる件	今後やむを得ざる場合には 委員欠席の場合はその代理人として常務取締役の出席を認める
	議事	山口県中小商工業者転廃業資金寄附金 東亜同文書院大学付属専門部開設 丸の内警察寮建築費 福岡県立航空工業学校の件 九州国防訓練場建設	重工伺
1943年4月23日	議事	財団法人日本産業協会 山陽神社 財団法人浅草会館増改築費の件 財団法人金学院の件 大東亜佛教青年大会 財団法人科学動員協会の件 甲南学校の件 土佐航空造船学校の件 財団法人在外邦人子弟教育協会の件 長江産業貿易開発協会の件 広島県中小商工業者共済会の件 広島県立三原中学校建設の件 在外邦人子弟教育協会の件	商事伺 商事伺 重工伺 重工伺
1943年5月7日	議事	世界経済調査会の件 中日文化協会の件 修養団の件 日本橋警防研究会寄附の件 帝国在郷軍人会徐州支部後援会寄附金 東方民族協会 軍用機献納寄附金の件 神奈川県消防艇建造立特別消防隊新設寄附金	倉庫伺 商事伺 商事伺 商事伺 重工伺

150,000円	増額援助のこと
10,000円	援助決議・三井同様
100,000円乃至50,000円	醸出決定
1,500,000円3ヶ年賦	寄附決定・社長名義
10,000円	寄附の事に決議
25,000円	寄附の事に決議
50,000円	寄附決議
年額30,000円宛3年間	寄附決議
50,000円	寄附決議
30,000円	寄附決定
重工63,000円・電機20,000円・商 事5,000円・銀行1,000円・倉庫 1,000 - 500円・信託業者間振合	
50,000円	承諾決議
28,000円	寄附済報告
40,000円	寄附済報告
50,000円	寄附承諾
20,000円	寄附決議
	寄附見送り
20,000円	寄附承認
50,000円	寄附決議
25,000円	援助決議
100,000円	寄附決議
	断ることとす
	一応債券全額償還を受け改めて寄附
20,000円	寄附決議
10,000円	援助決議
10,000円	援助決議
10,000円	援助決議
300,000円位	交渉取り纏めのことに決議
	援助一応見送り様子を見ることに決議
	援助一応見送り様子を見ることに決議
10,000円	寄附承認
10,000円	寄附承認
20,000円	寄附承認
50,000円	寄附承認
30,000円5ヶ年賦	寄附決議
30,000円	援助申出承認
	暫く様子を見る
10,000円	援助申出・申出通り決議
20,000円	寄附承認
10,000円	寄附承認
	寄附暫く様子を見ることに決議す
10,000円	寄附承認
15,000円	寄附承認(計画の性質上)

1943年5月28日	議事	広島県立三原中学校建設の件	重工伺
		長崎県小ヶ倉地内水溜池及配水池設置費寄附金	重工伺
		順川高等女学校設立寄附金	日本化成
		特別消防援護会の件	
		玄洋塾の件	
		軍人援護後援会の件	
		東方民族協会寄附の件	商事伺
		福岡県中小商工業転廃業者共助会の件	鉱業伺
		無錫軍用機献納寄附金	商事伺
		紀元二千六百年奉祝記念事業寄附金	商事伺
1943年6月4日	報告事項	県道熊本木山線改良事業費寄附の件	重工伺
		仁川公立職業学校の件	製鋼伺
		済南市難民救済金寄附の件	商事伺
1943年6月18日	議事	中日文化協会の件	
		財団法人京都技術科学館寄附金の件	銀行伺
1943年6月18日	議事	大日本緑地協会	

(出典) 『寄附委員会議事録』 第 4 号 (MA-8670)。

30,000円 (増額)	寄附承認	
200,000円 (造船所負担)	寄附承認	
30,000円	寄附承認	
11,000円	寄附決議	
60,000円宛5年 (計3万円)	寄附決議	
	各社別々に申込む事に決議す	
30,000円	援助不得止べしというに決議	
70,000円	寄附承認	
10,000円	寄附承認	
12,000円	寄附承認	
530,000円	寄附承認	
5,000円	寄附認許の報告	
50,000円以内	寄附決議	
10,000円	寄附申出承諾決議	

## 第4章 まとめと課題

本叢書では、三菱史料館所蔵史料である『寄附委員会議事録』や『寄附金明細帳』、『決算勘定書』、『決算書類』といった諸史料に基づき、三菱財閥を事例として、戦前期の日本企業における社会貢献の一端について、寄附という側面から明らかにしてきた。

この叢書のなかでも既にふれてきたが、三菱においては明治期のころから災害や教育事業等に対しても寄附が行われており、さらに戦間期から戦時期を通じて、さまざまな分野の企業・団体にたいして寄附を行っていたということが分かった。これを、寄附委員会における具体的な審議内容と併せて検討するならば、次のようなことをいうことができる。

すなわち、確かに1932年くらいからみられる、財閥の転向の一環としての「寄附」は、件数が増え、1934年にはピークをむかえた。しかし、こうした「寄附」のあり方とは別として、三菱においては明治期においてから、すなわち古くから寄附が行われており、巨額なものも確認されている。つまり、「社会的貢献」あるいはそれに順ずる寄附のあり方については、三菱においては、比較的古くから確認されたのである。またそれは、戦時体制期をも通じて広く行われていた。こうした事実から、先行研究において指摘されているような、1932年から1934年にかけてピークをむかえ、その後減少していった、という三菱の寄附についての動向に関しては、「本社部門による寄附金額」に注目した仮説としては一面妥当であるように思われるが、寄附自体がこうした財閥への批判が集中した1930年代前半の時期に特に限定的なことであったのかということのような訳では決してなく、戦前期の長い時期にわたって行われていたということが分った。なお、戦時体制の進行にしたがって寄附金額および寄附件数に減少が生じるが、それには戦時期における諸法令による制限および分系各社による分担という理由が大きく関係していた。すなわち、寄附金額の減少は、「内から」の傾向では決してなく、「外から」の規制に基づくものであった。

次に、寄附委員会という組織自体に関していうと、以下のような事実が明らか



になった。

まず、設置時期に関する新事実の発見である。先行研究においては、『三菱社誌』に記載されている内規（「寄附委員会内規」）制定時期との関係から、寄附委員会の設置は1940年10月5日であると考えられていた。この時期は、同年5月に株式会社三菱社が株式公開を行い、7月には査業委員会・財務委員会が設置されるといったように、いったんはその機能の縮小化・集約化がはかられた本社組織において、戦時体制の進行や外部資本市場の導入に対応して、その統制力の再強化がおこなわれた時期に該当する。すなわち、従来の研究史においては、寄附委員会の設置については、本社統制力の再強化という流れのなかに位置づけられ、そうしたなかで多く設置された委員会のひとつであるというような評価が行われていた。

しかし、三菱史料館所蔵史料である、『寄附委員会議事録』第1号～第4号の検討を通じ、寄附委員会は、遅くとも1932年4月には、組織として有効に機能していたということがわかった。そして、この時期における歴史的な背景として重要な点は、やはり前年（1931年）における金本位制停止をめぐる「ドル買い」事件に端を発した財閥批判、そしてこうした状況への対応としての財閥の「転向策」の施策という一連の諸策が大きく関係しているのではないかと考えられる。

一般に、財閥の「転向」策の重要な一側面として、財閥による社会事業に対する寄附が行われたということが指摘され、1932年から33年にかけて、財閥は多額の寄附を行ったということがいわれている<sup>1</sup>。そして、こうした財閥による寄附に関する動きの典型的なものとしてしばしば挙げられるものが、1934年4月の、三井財閥による「三井報恩会」の設立である。しかし、他財閥におけるこのような財閥の転向に関する具体的な動きについては、その詳細については、必ずしも明らかにされてきたわけではなかった。しかし、本書における三菱についての検討からは、三井の場合だけでなく三菱においても、このような社会的行為に対応するような組織がつけられたということが分った。しかもそれは、三井の場

---

1 たとえば、武田晴人（1995）『財閥の時代』新曜社、253頁など。

合におけるような寄附行為に関する財団法人の設立というかたちではなく、三菱において財閥内の意思決定を細分化させるうえで活用されてきた「委員会」という制度を活用した、寄附に関する審議を行う新委員会の設立というかたちで体现されるのであった<sup>2</sup>。

さらに、寄附委員会について、その機能に着目するならば、次のような事実が明らかとなった。設立当初においては、「寄附」に関する決定について、大口のものは社長室会による決議を必要とするものの、小口のものは寄附委員会において直接決裁をおこなう、というように、トップ・マネジメントに対する下部組織的な位置づけであったと考えられる。そして、このような委員会の設置の背景には、1932年からその存在が確認できるという点からも、いわゆる「財閥の転向」による寄附申請数の増加、という現象が、その背景にあったものと考えられる。すなわち、トップ・マネジメントにおける審議件数をへらしつつ、実質的な審議の場を確保するために委員会が新設された、という背景がそこにはあったのである。

しかしその後、戦時体制の進展にともない、寄附委員会は、本社役員だけでなく、重工・銀行・商事というような、財閥内において特に寄附に深くかかわっていたと考えられる分系各社のトップが集い、寄附に関する項目について審議する場としての役割を果たすことになる。こうした形式に移行してからしばらくの間においては、大口の寄附に関しては上位機関である三菱協議会に附議されることとなっており、下部組織としての役割を果たしていたと考えられる。しかし、次第にこうした上位機関への附議の記載はみられなくなり、本社および各社における寄附に関する単独の意思決定機関としての役割を果たすようになる。なお、こうした時期においても、寄附という項目にその機能を集中させ、細分化された委員会においてその審議および分系各社への配分を行うという形式が保たれていたものであり、その委員会としての機能は、終戦時においてまで確認されたのであった。すなわち、設立当初においては寄附の諾否や寄附金額の決定に関する審議・

---

2 なお、こうした内部的な組織の設立というかたちであったからこそ、財団を設立した三井の場合に比して、外部的に知られることが少なかったのではないかと考えられる。

決議機関としての機能を有しており、それが本社による株式公開がおこなわれた1940年にかけて、内規にも示されるように、寄附金を分系各社に割りあてるための審議を行うという役割も付加されたのであった。このようにして、寄附委員会は戦前期の比較的長期間にわたって、委員会として有効に機能していたのである。なお、このような委員会や経営組織に関する議論については、筆者が今までに行ってきた研究<sup>3</sup>をもふまえて、より精緻な議論を行っていかなくてはならないだろう。さらに、本叢書において明らかにしたような、戦前期の日本企業が寄附を行うという社会的活動の意味が、今日的な意味合いと比較してどのような意義を持つものであったのかについての検討についても、今後の課題として、他財閥や他企業との比較検討も視野に入れつつ、取り組んでいくことにしたい。

---

3 例えば、石井里枝（2010）「1930年代の三菱財閥における経営組織 理事会・社長室会の検討を中心に」『三菱史料館論集』第11号、同（2011）「三菱財閥における株式公開と株主総会運営 三菱重工業の事例を中心として」『三菱史料館論集』第12号、同（2012）「三菱財閥と委員会組織 寄附委員会を事例として」『愛知経営論集』第166号、同（2013a）「戦時期における三菱財閥の経営組織 - 総務部課長打合会の検討を中心として -」『経営総合科学』第99号、同（2013b）「三菱財閥の株式公開と株主総会 - 三菱商事・三菱本社の事例 -」『愛知経営論集』第167号、同（2014a）「資料課評議員会の活動と三菱財閥の組織」『三菱史料館論集』第15号、同（2014b）「戦時期三菱財閥の経営組織に関する研究」愛知大学経営総合科学研究所叢書44、同（2015）「両大戦間期の三菱における経済資料の蒐集と調査 - 資料課における蒐集資料の検討を通じて -」『三菱史料館論集』第16号など。

## おわりに

本叢書では、戦前期の三菱において行われてきた寄附に関して、その明細や、意思決定機関である寄附委員会について光をあて明らかにしてきた。極めて限定的な意味合いにおいてはああるが、企業による寄附という活動は、「企業の社会的責任（CSR）」の一環としても位置づけられるものである。

よく知られていることではあるが、この「企業の社会的責任（CSR）」は、ここで検討したような戦前期の寄附に関してのみならず、というよりはむしろ、きわめて今日的な話題である。現在、私のゼミ（愛知大学経営学部経営学科石井ゼミ）では、ゼミ活動の一環として、「渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートリーグ」という大会にここ数年参加させていただいているが、昨年度のディベートリーグのテーマが、「日本企業はCSR活動を推進すべきである（ない）」というものであり、まさに今日的な話題としてCSRについて多面的に議論を行うということであった。

私としては、本叢書において用いたような寄附に関する史料にもふれてきた経験から、「戦前期から財閥も寄附をそれなりに行っていたし、社会的活動を行ってきたのではないか」というイメージを持っていた。しかしながら、学生とともに上記のテーマについて考え、議論すると、やはり一般的な認識としては、日本におけるCSR活動というのは近年において議論が活発化されてきたものであり、諸外国におけるCSRに関する認識からはかなり「遅れた」議論であるという印象を受けることが多かった。

とはいえ、今日的な意味での「社会的貢献」とは違っていたかもしれないが、確かに古い時期から社会に対する責任を負うこと、寄附を行うということを、企業は行ってきたということを伝えたいと思った。そこで本叢書では寄附委員会、という側面だけでなく寄附そのものについての側面をも強調して、書いていくことにした。未だ議論が不十分な点も多いが、その点については今後の包括的な議論および研究のなかで補っていくことにしたい。

なお、三菱に関する研究を行う際には常に、という感じではあるが、今回の叢書作成に際しても、研究のために用いた資料の多くは三菱史料館（公益財団法人三菱経済研究所附属三菱史料館）所蔵のものである。このような貴重な資料の閲覧の便を取り計らってくださった、萩野谷泰部長、坪根明子氏、伊藤由美子氏をはじめとする三菱史料館の皆様、そして資料収集に訪れる際にはいつも温かく対応してくださる、吉峯寛副理事長、西田純隆常務理事、滝村竜介常務理事、遠山敬部長をはじめとする三菱経済研究所の皆様には深く感謝申し上げたい。また、このような研究成果の公表の場を与えてくださった愛知大学、ならびに愛知大学経営総合科学研究所に対しても、深く感謝の意を表したい。

ひとつ研究を行うと、必ずまたひとつ新しい課題が生まれてくる。また新しい研究を積み重ねていかななくてはならない。大変さを感じることもあるが、それこそが研究を続けて前へ進めていくという研究者としての面白さ、醍醐味なのではないかと思っている。今後も研究の面白さについてさらに噛み締めていけるよう、研究を継続していくことにしたい。

なお、本叢書は、愛知大学研究助成「日本における財閥の経営組織に関する研究 戦間期・戦時期の三菱を事例として」(C-171)、シキシマ学術・文化振興財団第29回研究助成「戦前期日本における財閥の発展と組織 中央と地方」による研究成果の一部であることをここに記す。

2015年1月 名古屋にて  
石井 里枝

## 参考文献

### (研究文献)

- 麻島昭一 (1986) 『三菱財閥の金融構造』 御茶の水書房
- 石井里枝 (2010) 「1930 年代の三菱財閥における経営組織 理事会・社長室会の検討を中心に」 『三菱史料館論集』 第 11 号
- 石井里枝 (2011) 「三菱財閥における株式公開と株主総会運営 三菱重工業の事例を中心として」 『三菱史料館論集』 第 12 号
- 石井里枝 (2012) 「三菱財閥と委員会組織 寄附委員会を事例として」 『愛知経営論集』 第 166 号
- 石井里枝 (2013a) 「戦時期における三菱財閥の経営組織 - 総務部課長打合会の検討を中心として -」 『経営総合科学』 第 99 号
- 石井里枝 (2013b) 「三菱財閥の株式公開と株主総会 - 三菱商事・三菱本社の事例 -」 『愛知経営論集』 第 167 号
- 石井里枝 (2014a) 「資料課評議員会の活動と三菱財閥の組織」 『三菱史料館論集』 第 15 号
- 石井里枝 (2014b) 『戦時期三菱財閥の経営組織に関する研究』 愛知大学経営総合科学研究所叢書 44
- 石井里枝 (2015) 「両大戦間期の三菱における経済資料の蒐集と調査 - 資料課における蒐集資料の検討を通じて -」 『三菱史料館論集』 第 16 号
- 武田晴人 (1995) 『財閥の時代』 新曜社
- 長沢康昭 (1981) 「三菱財閥の経営組織」 三島康雄編 『日本財閥経営史 三菱財閥』 日本経済新聞社
- 長沢康昭 (1987) 「本社部門の役割」 三島康雄・長沢康昭・柴孝夫・藤田誠久・佐藤英達 『第二次大戦と三菱財閥』 日本経済新聞社
- 旗手勲 (1978) 『日本の財閥と三菱 財閥企業の日本的風土』 楽遊書房

### (資料等)

- 『寄附金明細帳』 (MA - 2200, 6340)
- 『寄附委員会議事録』 第 1 号～第 4 号 (MA - 8038, 6306, 6307, 8670)
- 『社長室会議事録』 第 1 号～第 5 号 (MA - 8023, 8024, 8025, 8026, 8027)
- 『決算勘定書』 各年度 (MA - 2203, 2206, 2208, 2210, 2212, 2213)
- 『決算書類』 各年度・各期 (MA - 2214～2232)
- 『寄附金分担率表』 (MA - 6247)

以上 三菱史料館所蔵史料

三菱社誌刊行会 (1981) 『三菱社誌』 東京大学出版会 各巻

著者紹介

いし い り え  
石 井 里 枝

ISHII RIE

愛知大学経営学部准教授

専攻 日本経営史，日本経済史

愛知大学経営総合科学研究所叢書 46

---

戦前期の日本企業における社会貢献活動  
- 三菱財閥の寄附に関する検討を中心として -

---

2015 年 3 月 23 日発行

著 者	石 井 里 枝
発 行 所	愛知大学経営総合科学研究所 〒453-8777 名古屋市中村区平池町 4 丁目 60-6
印刷・製本	株式会社 一 誠 社 名古屋市昭和区下構町 2-22

---

[非売品]

